

がん患者の就労支援に関する事業所実態調査の結果について

1 目 的

第3期千葉県がん対策推進計画に基づき、がん患者・経験者の就労に関する現状を把握し、職場に対するがんの正しい知識の普及、事業者・がん患者やその家族経験者に対する相談支援体制のあり方を検討するために必要な基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査概要

調査対象	県内事業所 3,000か所 「平成28年経済センサスー活動調査」の実施対象である県内事業所約192,000か所から規模別・業種別に無作為抽出。 (別紙1のとおり)
調査方法	○各事業所に郵送で調査を依頼。 ※千葉県経営者協会、千葉県商工会連合会、千葉県商工会議所連合会、千葉県中小企業団体中央会及び千葉県労働基準協会連合会に文書により協力依頼。 ○回答は、郵送、FAX、電子申請システム又はメールにより回収
調査期間	令和元年7月1日～8月30日
調査項目	・法人の概要 ・法人の制度 ・従業員が私傷病になったときの対応 ・従業員の家族が私傷病になったときの対応 ・従業員の仕事と治療の両立の実現に向けた課題や今後の方針 (別紙2のとおり)
回収状況	546／3,000件 (回収率18.2%)

3 調査結果

別紙3のとおり

4 調査結果の公表方法

千葉県ホームページに掲載

千葉県内事業所調査抽出数

	業種	5人以上 事業所 (A)	基本抽 出数(B)	抽出数 (C)	対象割合% (D) = (C) ÷ (A)
C	鉱業, 採石業, 砂利採取業	38	1	2	5.26%
D	建設業	8,992	311	320	3.56%
E	製造業	6,396	221	230	3.60%
F	電気・ガス・熱供給・水道業	111	4	5	4.50%
G	情報通信業	617	21	24	3.89%
H	運輸業, 郵便業	4,297	149	157	3.65%
I	卸売業, 小売業	22,975	795	750	3.26%
J	金融業, 保険業	1,850	64	72	3.89%
K	不動産業, 物品賃貸業	2,735	95	100	3.66%
L	学術研究, 専門・技術サービス業	2,247	78	84	3.74%
M	宿泊業, 飲食サービス業	11,729	406	390	3.33%
N	生活関連サービス業, 娯楽業	4,654	161	170	3.65%
O	教育, 学習支援業	2,975	103	108	3.63%
P	医療, 福祉	11,384	394	380	3.34%
Q	複合サービス事業	709	25	28	3.95%
R	サービス業 (他に分類されないもの)	5,030	174	180	3.58%
	計	86,739	3,001	3,000	

抽出方法

- ①各業種別のうち、5人以上の事業所を対象に抽出 (A)
 - ②①に抽出数による各業種別数の3.46%の事業所数を算定 (B)
 - ③ (B)により算定した事業所数をもとに、従業員規模に配慮し、抽出 (C)
- ※母数の多い業種については、送付数を調整している。

※御回答は、(1)又は(2)の方法にてお願いいたします。

○千葉県では、千葉県がん対策審議会に、「がんとの共生推進部会」を設置し、就労支援に関する取組の検討を行っています。本調査は、がん患者の就労に関する実態を把握し、今後の対策検討に活用することを目的に行うものです。

○本調査は、法人を単位として行います。本社事業所だけでなく、支店・出張所・営業所等の千葉県内外の全事業所を含めた法人全体についてご回答ください。また、回答票の記入は、貴法人の人事・労務ご担当者様にお願いします。

○本調査における従業員とは、正規雇用の従業員（雇用期間の定めのないフルタイムの従業員）だけではなく、非正規雇用の従業員（雇用期間の定めのある従業員〔契約社員、嘱託社員、パートタイマー等〕）も含みます。但し、派遣労働者や請負労働者は含みません。

○特に指定のない限り、令和元年7月1日時点の状況についてご回答ください。

○ご回答いただいた調査票は、取扱いに十分注意し、統計的に処理するとともに、上記目的以外には使用いたしません。また、本調査の結果を公表する場合は、法人が特定されることがないように十分、配慮します。

○回答期限を令和元年8月30日（金）としております。

ご多忙のところ恐縮ですが、ご協力くださるようお願いいたします。

本調査についてのお問合せ先 千葉県健康福祉部 健康づくり支援課 がん対策班
電話：043(223)2686・2402 FAX：043(225)0322
E-mail:cantaisaku@mz.pref.chiba.lg.jp

(1) ちば電子申請サービスにて。(インターネットから『ちば電子申請サービス』→団体検索『千葉県への申請はこちら』→組織別検索『健康づくり支援課』→『がん患者就労支援に関する事業所実態調査』→電子申請をクリックすると入力画面が表示されます)

(2) 別紙【回答用紙】(その1)及び【回答用紙】(その2)にご記入の上、郵送、FAX又はEメールにて。

●【貴法人の概要】

問1 貴法人の主たる事業の業種について、次の1～17から当てはまるものにいくつかも○をつけてください。また、17の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|-----------------|---------|
| 1 建設業 | 2 製造業 | 3 電気・ガス・熱供給・水道業 | 4 情報通信業 |
| 5 運輸業・郵便業 | 6 卸売業・小売業 | 7 金融業・保険業 | |
| 8 不動産業、物品賃貸業 | 9 学術研究、専門・技術サービス業 | | |
| 10 宿泊業、飲食サービス業 | 11 生活関連サービス業、娯楽業 | | |
| 12 教育、学習支援業 | 13 医療、福祉 | 14 複合サービス事業 | |
| 15 サービス業（他に分類されないもの） | 16 公務（官公庁） | | |
| 17 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | | | |

問2 貴法人の従業員数についてご記入ください。(注をご参照願います)

1 全常用従業員数	人	2 (左のうち) 正規雇用	人
		3 (左のうち) 非正規雇用 (パートタイム等)	人

〔注〕全常用従業員数：期間を定めずに、又は1か月を超える期間を定めて雇われている者、又は臨時又は日雇い労働者で、調査日前の2か月の各月にそれぞれ18日以上雇われた者のいずれかに該当する者。但し、派遣労働者や請負労働者は含まない。正規雇用の従業員：雇用期間の定めのないフルタイムの従業員、非正規雇用の従業員：雇用期間の定めのある従業員〔契約社員、嘱託社員、パートタイマー等〕。但し、派遣労働者や請負労働者は含まない。

●【貴法人の制度】

問3 貴法人では、従業員が私傷病になった際の休暇・休職や勤務形態等について、就業規則で規定していますか。正規雇用・非正規雇用ごとに、次の1~3のいずれかに○をつけてください。また、3の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

【正規雇用】

- | |
|------------------------|
| 1 規定している |
| 2 規定していない |
| 3 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

【非正規雇用】

- | |
|------------------------|
| 1 規定している |
| 2 規定していない |
| 3 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

問4 貴法人では、従業員家族の私傷病により、従業員が主たる介護者となった際の休暇・休職や勤務形態等について、就業規則で規定していますか。正規雇用・非正規雇用ごとに、次の1~3のいずれかに○をつけてください。また、3の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

【正規雇用】

- | |
|------------------------|
| 1 規定している |
| 2 規定していない |
| 3 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

【非正規雇用】

- | |
|------------------------|
| 1 規定している |
| 2 規定していない |
| 3 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

問5 貴法人における私傷病による長期休職者の復職に関する方針について、次の1~5のいずれかに○をつけてください。また、5の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | |
|-------------------------|
| 1 試し（慣らし）出勤制度等で徐々に復職させる |
| 2 完全に治ってから復職させる |
| 3 個別対応としている |
| 4 特に方針はない |
| 5 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

問6 貴法人における身分保障期間及び所得保障期間についてご記入ください。

- | |
|--|
| 1 身分保障期間（雇用を保障している期間）
_____ 日間・月間（日間・月間いずれかでご記入願います） |
| 2 所得保障期間
（賃金や傷病手当、健康保険からの傷病手当金や共済会からの休業給付などが支給されている期間、共済会を含む）
_____ 日間・月間（日間・月間いずれかでご記入願います） |

●【従業員が私傷病になったときの対応】

問7-1 過去に、貴法人の従業員でがんになった方はいましたか。正規雇用・非正規雇用ごとに、次の1~3のいずれかに○をつけてください。

【正規雇用】

- | | | |
|------|-------------|---------------|
| 1 いた | 2 いない→問8-1へ | 3 わからない→問8-1へ |
|------|-------------|---------------|

【非正規雇用】

- | | | |
|------|-------------|---------------|
| 1 いた | 2 いない→問8-1へ | 3 わからない→問8-1へ |
|------|-------------|---------------|

問7-2 問7-1で「1 いた」と回答した法人に伺います。その中に、がんにより1か月以上連続して休職、休業した従業員はいましたか。次の1~3のいずれかに○をつけてください。また、1の場合は、回答用紙の〔 〕の中に人数をご記入ください。

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| 1 いた（※別紙回答用紙に人数をご記入ください）→問7-3へ | |
| 2 いない→問8-1へ | 3 わからない→問8-1へ |

問7-3 問7-2で「いた」と回答した法人に伺います。その復職状況はどうでしたか。正規雇用・非正規雇用ごとに、次の1~5のいずれかに○をつけてください。また、5の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

【正規雇用】

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 復職する人が多い | 2 復職後退職する人が多い |
| 3 復職することなく退職する人が多い | 4 わからない |
| 5 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

【非正規雇用】

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 復職する人が多い | 2 復職後退職する人が多い |
| 3 復職することなく退職する人が多い | 4 わからない |
| 5 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

問8-1 従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことについて、次の1~12に該当するものすべてに○をつけてください。また、12の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | | |
|---|--------|
| 1 病気や治療に関する見通しがわからない | →問8-2へ |
| 2 代替要員の確保が難しい | →問8-2へ |
| 3 復職可否の判断が難しい | →問8-2へ |
| 4 復職後の適正配置の判断が難しい | |
| 5 プライバシーの問題であるため、病気や治療の見通し等の情報を本人に聞きづらい | |
| 6 就業制限の必要性や期間の判断が難しい | |
| 7 症状の悪化や再発防止の対策がわからない | |
| 8 症状や治療に配慮した業務分担や処遇等について、他の従業員の理解・協力を得ることが難しい | |
| 9 長期休業・休職期間中の社会保険料の事業主負担分の支払いの負担が大きい | |
| 10 従業員の処遇や復職可否の判断・適正配置等についての相談先がわからない | |
| 11 特に問題なし | |
| 12 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

問8-2 問8-1で1~3に該当すると回答された場合は、次の中から具体例や理由に該当するものすべてに○をつけてください。また、その他の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。（記入は任意です）

※過去の調査では1~3の回答が多く選択されましたので理由をお聞かせ願います。

(1) 「病気や治療に関する見通しがわからない」と言うのは、具体的に病気や治療に関して、主治医からどのような情報がほしいとお考えですか？

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 治療に要する期間 | 2 治療で起こりうる副作用 |
| 3 副作用や後遺症の対処方法 | 4 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

(2) 代替要員の確保が難しい

- | | | |
|------------------------|--------------|------------|
| 1 賃金の確保が難しい | 2 適任者が見つからない | 3 配置換えが難しい |
| 4 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | | |

(3) 復職可否の判断が難しい

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 どんな作業なら可能かがわからない | 2 就労可能時間がわからない |
| 3 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

問8-3 問8-1で従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことについて、どちらかに相談しましたか。

- | | |
|-----------|--------|
| 1 相談した | →問8-4へ |
| 2 相談しなかった | →問8-5へ |

問8-4 問8-3で「1 相談した」と回答した法人にお伺いします。その相談先はどちらですか。次の1~4のうち該当するものすべてに○をつけてください。また、6の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 1 産業医 | 2 地域産業保健センター |
| 3 医療機関(主治医) | 4 がん相談支援センター(がん診療連携拠点病院内設置) |
| 5 社会保険労務士 | 6 その他(※別紙回答用紙にご記入ください) |

問8-5 問8-3で「2 相談しなかった」と回答した法人にお伺いします。その理由を次の1~4のうち該当するものすべてに○をつけてください。また、4の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | |
|-------------------------------|
| 1 相談する先がわからなかった |
| 2 本やインターネットなどから参考情報を入手して対応できた |
| 3 従業員と話し合っただけで対応できた |
| 4 その他(※別紙回答用紙にご記入ください) |

●【従業員の家族が私傷病になったときの対応】

問9-1 過去に、貴法人の従業員の家族でがんになった方はいましたか。次の1~3のいずれかに○をし、「1 いた」と回答した法人は、該当する従業員の雇用形態(正規雇用・非正規雇用)に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 いた(正規雇用・非正規雇用) →問9-2へ | 2 いない →問10-1へ |
| 3 わからない →問10-1へ | |

問9-2 問9-1で「1 いた」と回答した法人に伺います。その中に、がんになった家族の介護のため1か月以上連続して休職、休業した従業員はいましたか。次の1~3のいずれかに○をつけてください。また、1の場合は、回答用紙の〔 〕の中に人数をご記入ください。

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| 1 いた(※別紙回答用紙に人数をご記入ください) →問9-3 | |
| 2 いない →問10へ | 3 わからない →問10へ |

問9-3 問9-2で「いた」と回答した法人に伺います。その復職状況はどうでしたか。正規雇用・非正規雇用ごとに、次の1~5のいずれかに○をつけてください。また、5の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

【正規雇用】

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 復職する人が多い | 2 復職後退職する人が多い |
| 3 復職することなく退職する人が多い | 4 わからない |
| 5 その他(※別紙回答用紙にご記入ください) | |

【非正規雇用】

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 復職する人が多い | 2 復職後退職する人が多い |
| 3 復職することなく退職する人が多い | 4 わからない |
| 5 その他(※別紙回答用紙にご記入ください) | |

●【従業員の仕事と治療の両立の実現に向けた課題や今後の方針】

問10 貴法人では、今後、がんになった後も安心して働き続けられるよう、仕事と治療の両立が実現できる職場づくりが必要になるとお考えですか。次の1~4のいずれかに○をつけてください。また、4の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- 1 必要性を感じている
- 2 どちらかという必要性を感じている
- 3 あまり必要性を感じていない
- 4 必要性は感じていない（※別紙回答用紙にご記入ください）

問11-1 貴法人において、がんになった従業員の仕事と治療の両立を妨げているものは何ですか。次の1~11に該当するものすべてに○をつけてください。また、11の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- 1 代替要員の確保が困難
- 2 柔軟な勤務制度の整備が困難
- 3 病気そのものや治療の内容と仕事への影響がわからない
- 4 金銭的な補償が困難
- 5 具体的な支援の方法がわからない
- 6 従業員の社会保険料の事業主負担が大きい
- 7 治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難
- 8 産業保健スタッフの雇用にかかるコスト負担が大きい
- 9 他の従業員の理解が得られにくい
- 10 特になし
- 11 その他（※別紙回答用紙にご記入ください）

問11-2 貴法人において、がんになった従業員の仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進めるため、何か取り組んでいることはありますか。次の1~3のいずれかに○をつけてください。また、1の場合は、よろしければ、回答用紙の〔 〕の中に取組内容をご記入ください。

- 1 取り組んでいる（※別紙回答用紙にご記入ください）
- 2 今後取り組むことを検討している。
- 3 特に取り組んでいない。

問 12-1 今後、県が、県内企業等を対象に、がんになった従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として普及啓発・情報提供を行う場合、貴法人として、特に知りたい内容は何ですか。次の1~10のうち該当するものすべてに○をつけてください。また、10の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 他社での取組事例 | |
| 2 就業上の配慮 | → 問 12-2 の回答後問 12-3 へ |
| 3 従業員の受診医療機関との連携方法 | → 問 12-2 の回答後問 12-3 へ |
| 4 従業員が相談できる相談窓口 | |
| 5 法人が相談できる相談窓口 | |
| 6 がんそのものや治療方法等の基本的な情報 | |
| 7 国や県の施策動向 | |
| 8 産業医等の産業保健スタッフとの連携方法 | |
| 9 社内での普及啓発資材 | |
| 10 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

問 12-2 県が行う普及啓発・情報提供の方法として希望するものは何ですか。次の1~5のうち該当するものすべてに○をつけてください。また、5の場合は、回答用紙の〔 〕の中に具体的内容をご記入ください。

- | | | |
|-----------|------------------------|----------|
| 1 講演会・研修会 | 2 リーフレット | 3 ホームページ |
| 4 メールマガジン | 5 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

問 12-3 問 12-1 で2または3を選択された法人にお伺いします。県が、県内企業等を対象に、がんになった従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として普及啓発・情報提供を行う場合に特にお知りになりたいことを次の中から該当するものすべてに○をつけてください。その他の場合は、回答用紙の〔 〕に具体的内容をご記入ください。（記入は任意です）

(1) 問 12-1 で「2 就業上の配慮」を選ばれた場合

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 就業時間の配慮の方法 | 2 就業規則などとの調整 |
| 3 症状に対応した作業内容の変更 | |
| 4 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） | |

(2) 問 12-1 で「3 従業員の受診医療機関との連携方法」を選ばれた場合

- | |
|--------------------------------|
| 1 受診時に従業員と一緒に医療機関で説明を受ける場合の手続き |
| 2 医療機関の相談窓口に相談する場合の手続き |
| 3 相談に係る費用について |
| 4 その他（※別紙回答用紙にご記入ください） |

問 13 平成 28 年度に千葉県で作成した、「復職・就労継続支援に関する情報提供依頼書」を知っていますか。次の1・2のいずれかに○をつけてください。

- | | |
|---------|---------|
| 1 知っている | →問 14 へ |
| 2 知らない | →問 15 へ |

問 1 4 「復職・就労継続支援に関する情報提供依頼書」を活用したことはありますか。
次の 1~3 のいずれかに○をつけてください。

1 活用したことがある	2 活用したことはない
3 機会があれば活用したい	

問 1 5 就労支援に関する取組について、今後もアンケート等にご協力いただける場合は、別紙回答用紙にご連絡先をご記入願います。

問 1 6 その他、がんになった従業員の仕事と治療の両立について、悩み、ご意見や普段お考えのこと、行政に対し求めたいこと等がありましたら、別紙回答用紙に具体的内容をご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

がん患者の就労支援に関する事業所実態調査【回答用紙】 (その1)

同封の調査用紙の回答欄記載の該当する番号を○で囲んでください。または、数値をご記入ください。

質 問	回 答 番 号										
問 1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17 []			
問 2	1 (人)	2 (人)	3 (人)
問 3	正規雇用	1	2	3 []
	非正規雇用	1	2	3 []
問 4	正規雇用	1	2	3 []
	非正規雇用	1	2	3 []
問 5	1	2	3	4	5 []
問 6	1 (日間・月間)		2 (日間・月間)			
問 7-1	正規雇用	1	2	3							
	非正規雇用	1	2	3							
問 7-2	1 (正規雇用		人/非正規雇用	人)	2		3				
問 7-3	正規雇用	1	2	3	4	5 []
	非正規雇用	1	2	3	4	5 []
問 8-1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12 []
問 8-2-(1)	1	2	3	4 []
問 8-2-(2)	1	2	3	4 []
問 8-2-(3)	1	2	3	[]
問 8-3	1	2	問 8-4	1	2	3	4	5	6 []
問 8-5	1	2	3	4 []
問 9-1	1 (正規雇用・非正規雇用)			2	3						
問 9-2	1 (正規雇用		人/非正規雇用	人)	2		3				
問 9-3	正規雇用	1	2	3	4	5 []
	非正規雇用	1	2	3	4	5 []
問 10	1	2	3	4 []

がん患者の就労支援に関する事業所実態調査【回答用紙】 (その2)
(記述項目記載欄用)

同封の調査用紙 (その1) の回答欄の記述欄が書ききれない場合に御利用願います。

質 問	回 答 番 号
問 1	17 []
問 3	正規雇用 3 []
	非正規雇用 3 []
問 4	正規雇用 3 []
	非正規雇用 3 []
問 5	5 []
問 7-3	正規雇用 5 []
	非正規雇用 5 []
問 8-1	12 []
問 8-2-(1)	4 []
問 8-2-(2)	4 []
問 8-2-(3)	3 []
問 8-4	6 []
問 8-5	4 []
問 9-3	正規雇用 5 []
	非正規雇用 5 []
問 10	4 []
問 11-1	11 []
問 11-2	1 []
問 12-1	10 []
問 12-2	5 []
問 12-3-(1)	4 []
問 12-3-(2)	4 []
問 16	

御協力いただき、ありがとうございました。

がん患者の就労支援に関する事業所実態調査結果

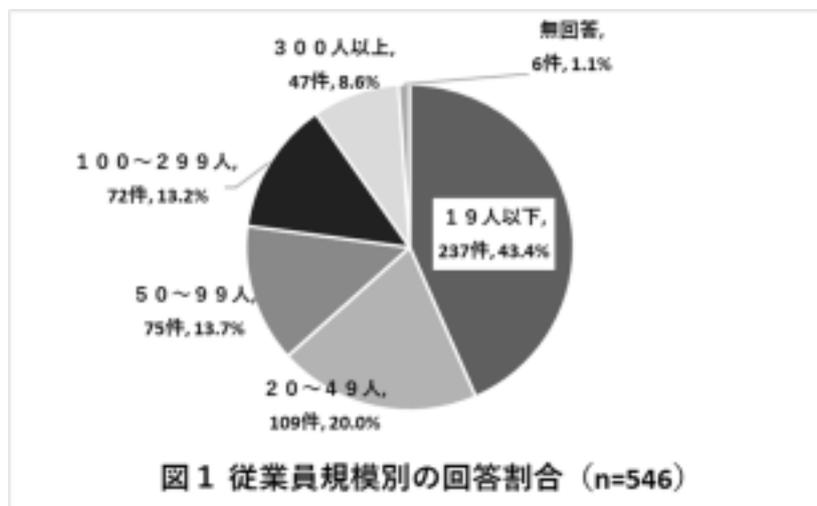
【法人の概要】

<問1>業種別の回答割合の内訳は、「医療・福祉」が17.9%で最も多く、次いで「卸売業・小売業」が14.7%、「建設業」が14.2%であった。

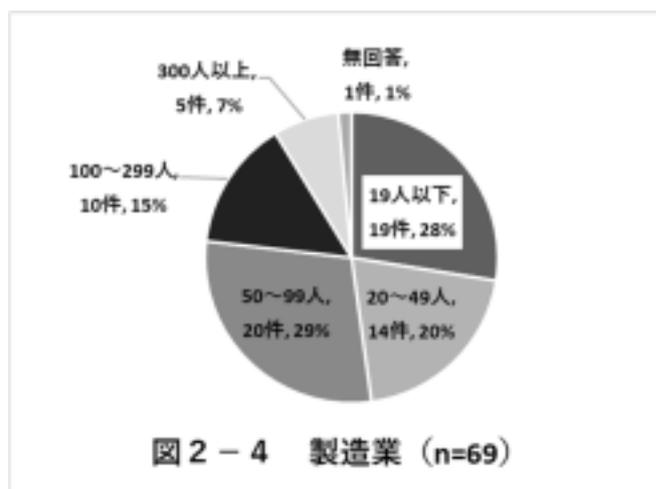
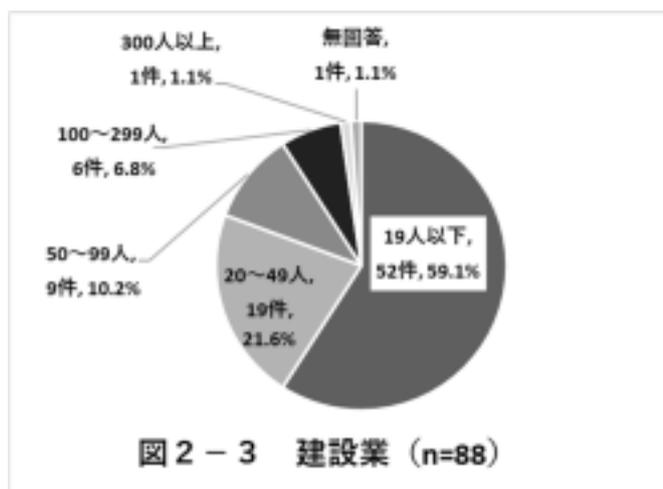
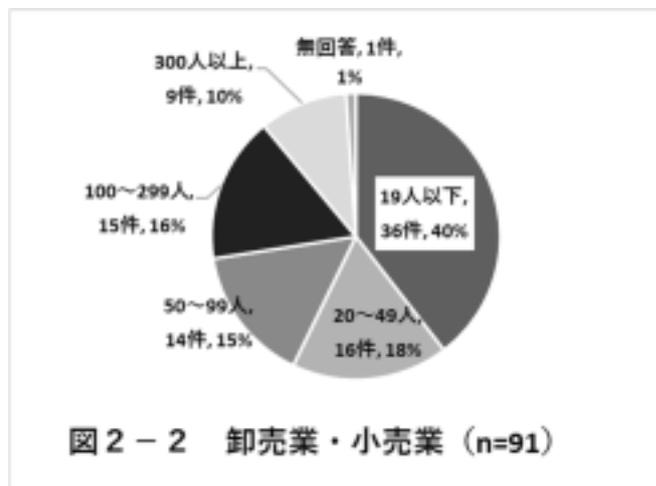
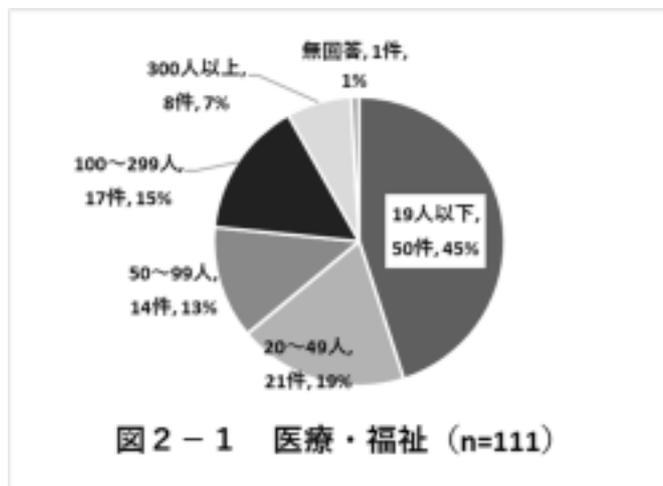
表1 業種別の回答割合【複数回答】

業種名	配布数	回答数	割合
建設業	320	88	14.2%
製造業	230	69	11.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	5	9	1.5%
情報通信業	24	6	1.0%
運輸業・郵便業	157	31	5.0%
卸売業・小売業	750	91	14.7%
金融業・保険業	72	19	3.1%
不動産業、物品賃貸業	100	15	2.4%
学術研究、専門・技術サービス業	84	22	3.5%
宿泊業、飲食サービス業	390	36	5.8%
生活関連サービス業、娯楽業	170	13	2.1%
教育、学習支援業	108	18	2.9%
医療、福祉	380	111	17.9%
複合サービス事業	28	7	1.1%
サービス業(他に分類されないもの)	180	50	8.1%
公務(官公庁)	-	1	0.2%
その他	2	31	5.0%
無回答	-	3	0.5%
総数	3000	620	100.0%

<問2>従業員規模別の回答割合は、「19人以下」が43.4%で最も多く、次いで「20人から49人」が20.0%、「50人から99人」13.7%、「100人から299人」が13.2%、「300人以上」が8.6%であった。

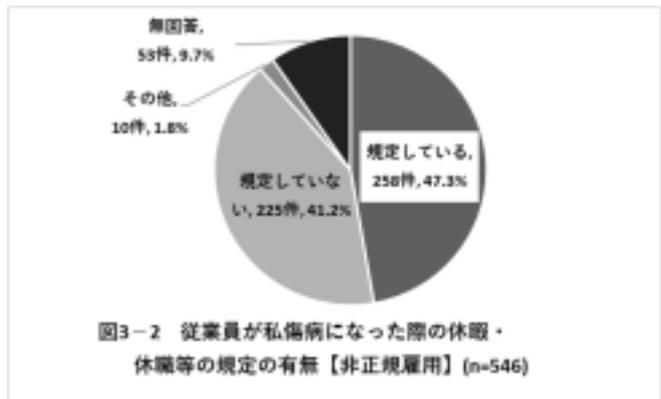
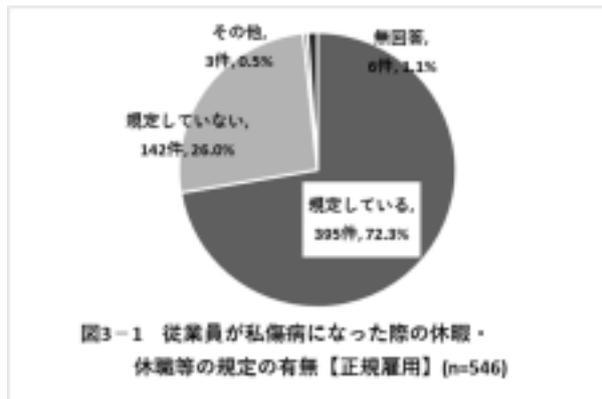


回答割合の高かった業種を従業員規模別にみると、以下のとおりであった。



【法人の制度】

＜問3＞従業員が私傷病になった際の休暇・休職や勤務形態等について、就業規則での規定の有無は、正規雇用では「規定している」が72.3%、「規定していない」が26.0%であった。また、非正規雇用では「規定している」が47.3%、「規定していない」が41.2%であった。



その他に記載の内容は以下のとおり。

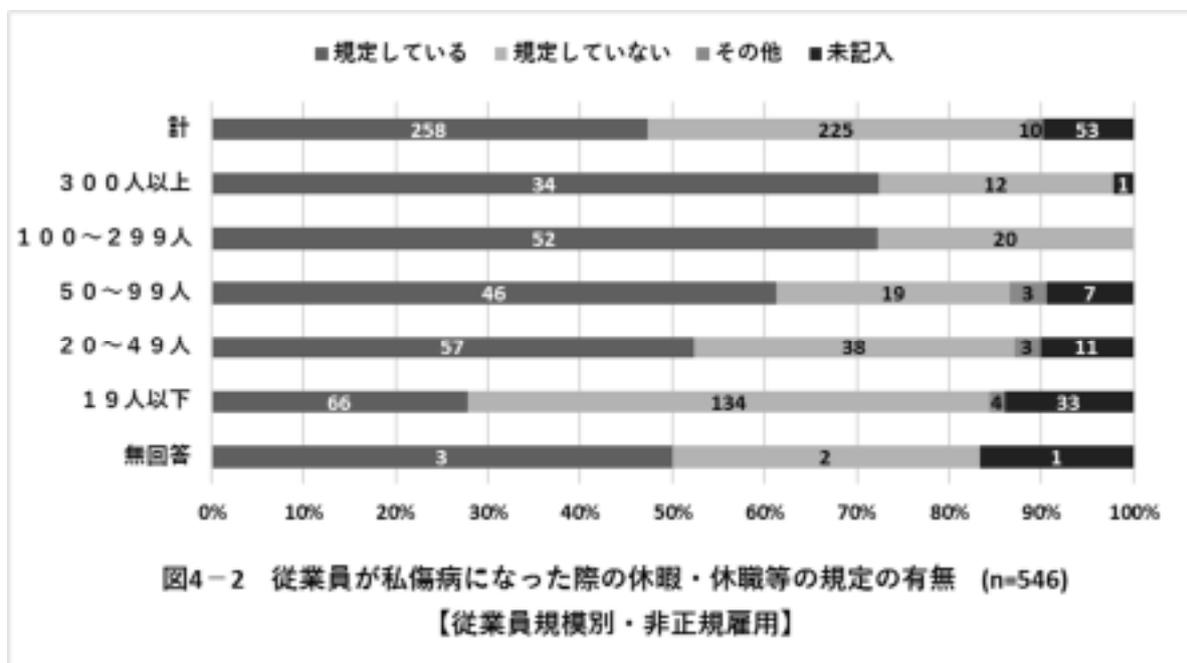
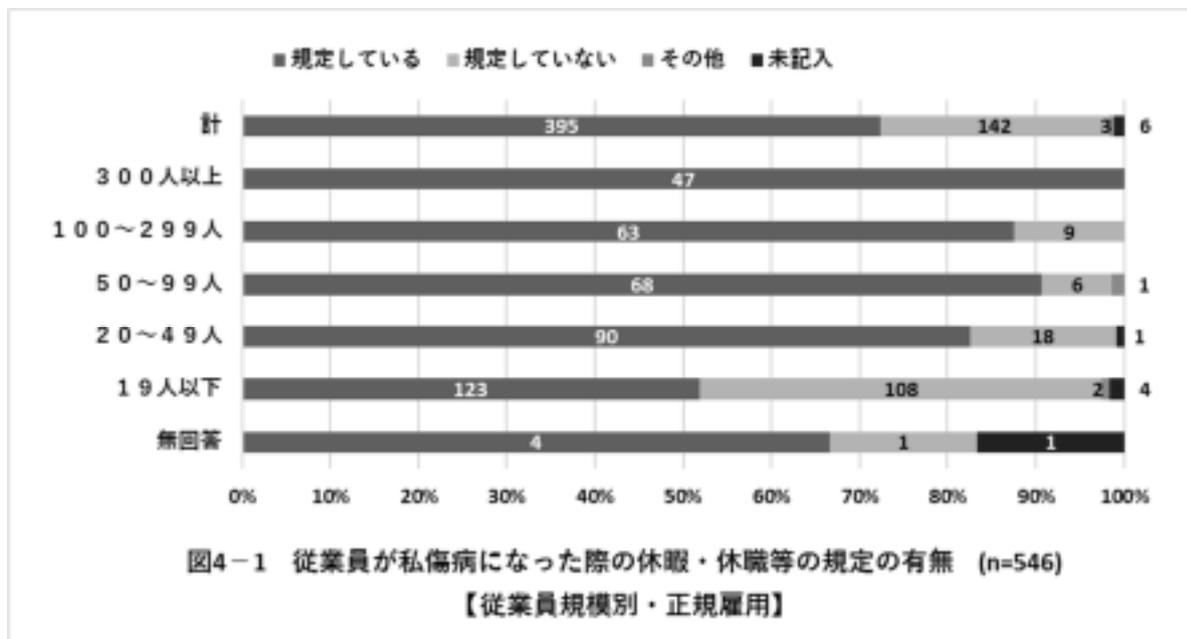
○正規雇用

- ・正規職員はいません

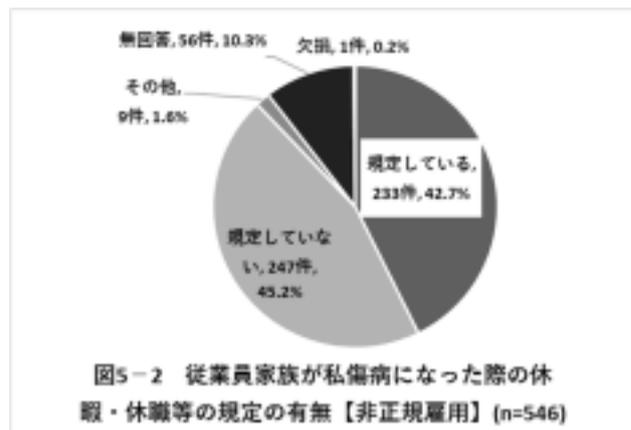
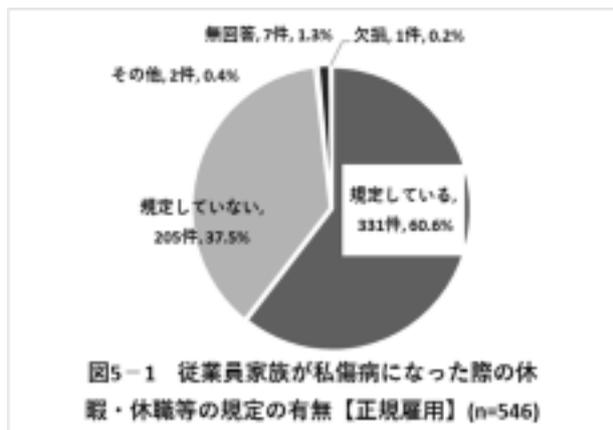
○非正規雇用

- ・いない
- ・社保入っている人には規定あり
- ・非正規職員に関する規程自体がない
- ・休暇については就業規則に明記されている
- ・休職は適用しない、と規定

従業員規模別にみると、規模が大きいほど、従業員が私傷病になった際の休暇・休職や勤務形態等について就業規則を設けていた。



＜問4＞従業員家族の私傷病により、従業員が主たる介護者となった際の休暇・休職や勤務形態等について、就業規則での規定の有無は、正規雇用では「規定している」が60.6%、「規定していない」が37.5%であった。また、非正規雇用では「規定している」が42.7%、「規定していない」が45.2%であった。

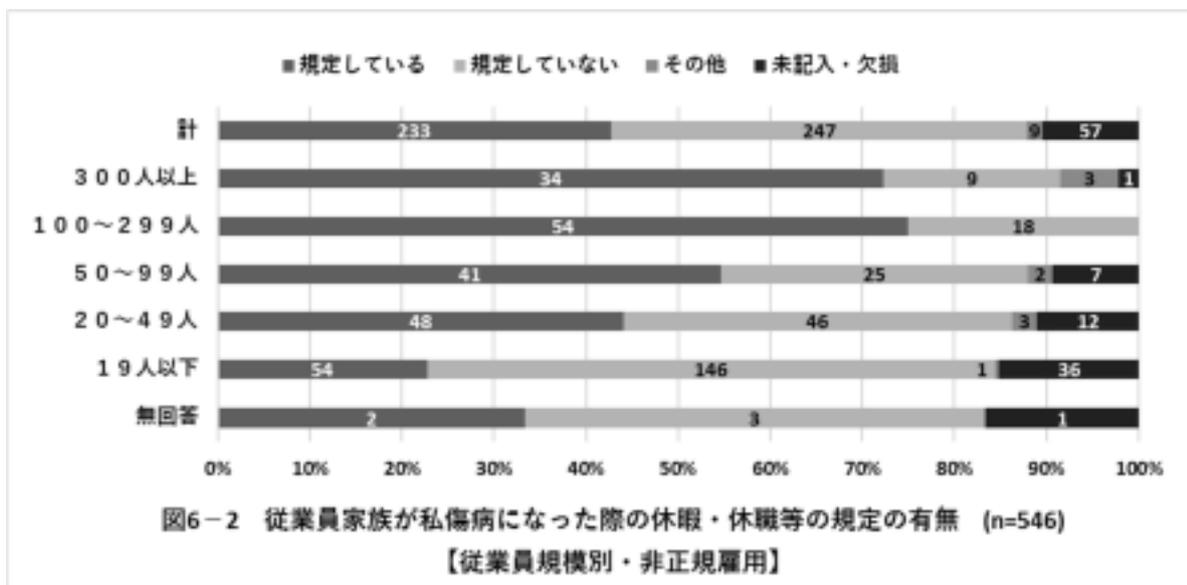
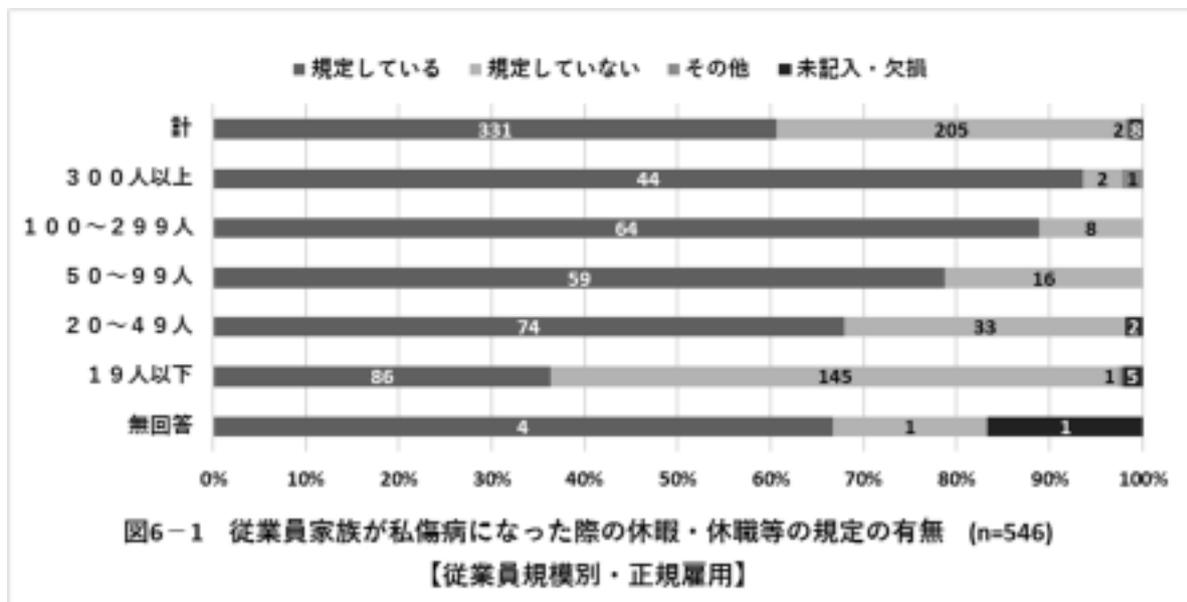


その他に記載の内容は以下のとおり。

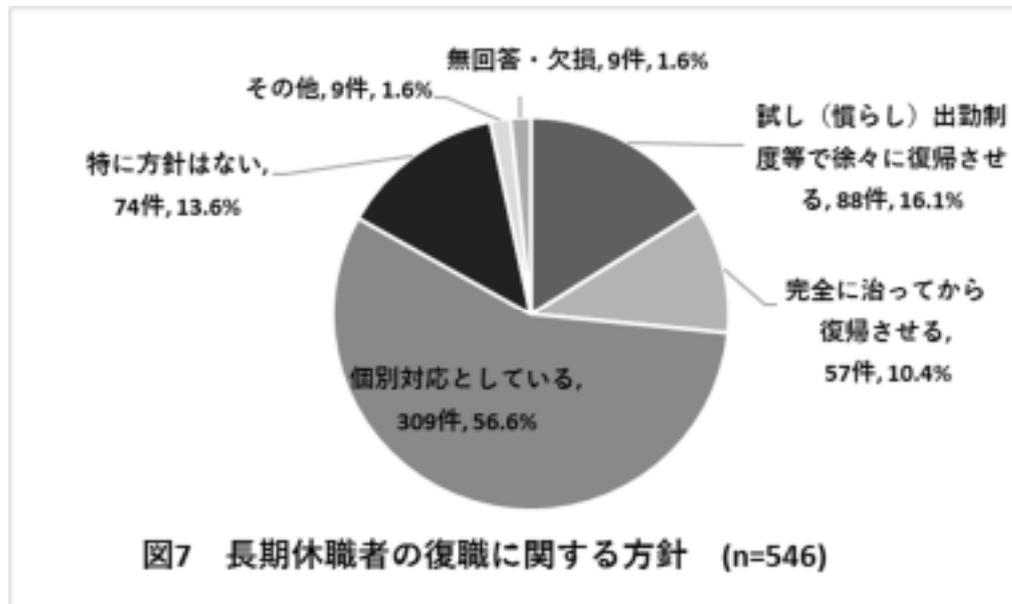
○非正規雇用

- ・入職1年以上であり、法人の定めるところによる
- ・出向元の規定による
- ・法の定めに基づく

従業員規模別にみると、規模が大きいほど、従業員家族が私傷病により、従業員が主たる介護者となった際の休暇・休職や勤務形態等について就業規則を設けていた。



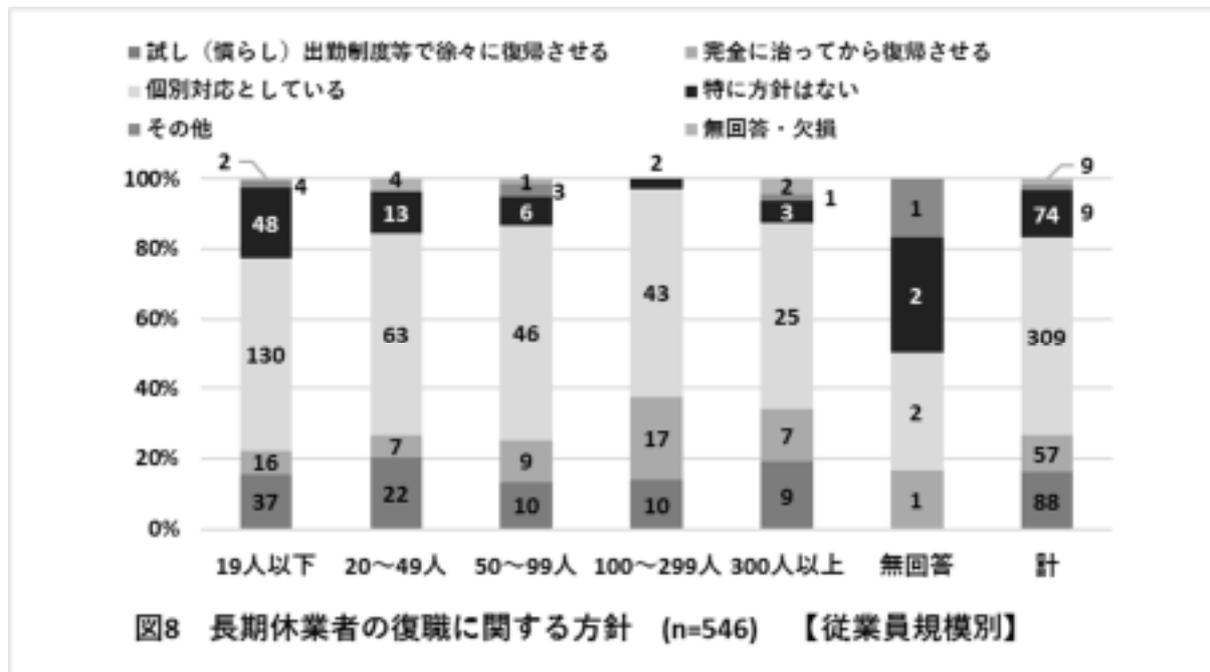
＜問5＞私傷病による長期休職者の復職に関する方針は、「個別対応としている」が 56.6%で最も多く、次いで「試し(慣らし)出勤制度等で徐々に復帰させる」が 16.1%、「特に方針はない」が 13.6%であった。



その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・医師等の証明による
- ・医者診断書に基づき、産業医の指示で出社の可否を判断
- ・医師の診断書を添えて復職願いを提出
- ・メンタルは「試し(慣らし)出勤制度等で徐々に復帰させる」、その他は産業医の判断

従業員規模別にみると、どの規模でも、「個別対応としている」と回答した法人が最も多かった。次いで、49 人以下の法人では「特に方針はない」「試し(慣らし)出勤制度等で徐々に復帰させる」が多く、50 人以上の法人では「試し(慣らし)出勤制度等で徐々に復帰させる」「完全に治ってから復帰させる」が多かった。

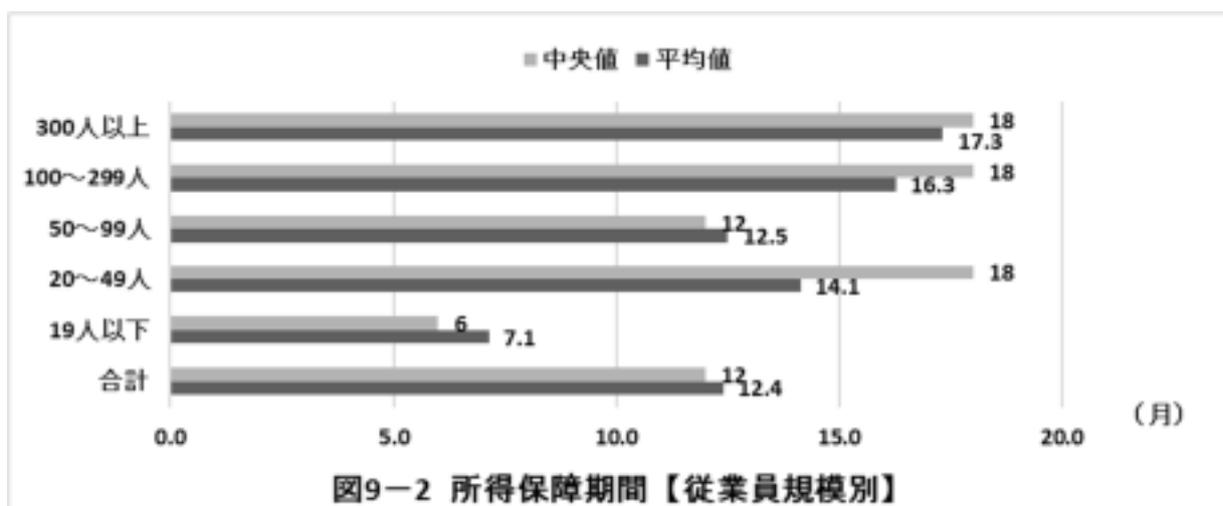
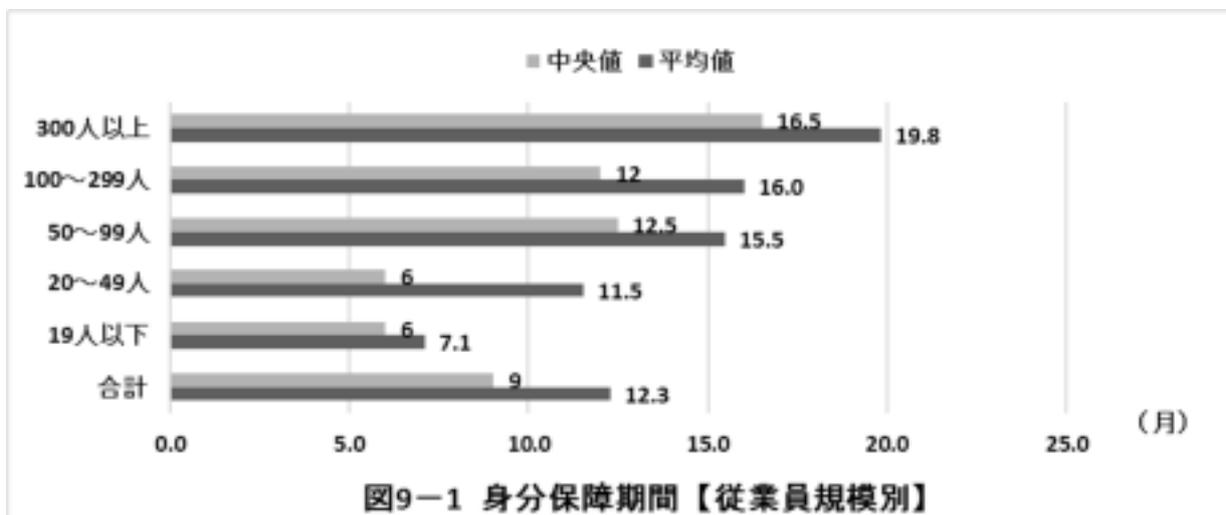


<問6>身分保障期間(雇用を保障されている期間)は、最大 60 か月、最小 0 か月、平均 12.3 か月であった。所得保障期間(賃金や傷病手当、健康保険からの傷病手当金や共済金からの休業給付などが支給されている期間、共済金を含む)は、最大 39 か月、最小 0 か月、平均 12.4 か月であった。

表2 身分保障期間及び所得保障期間

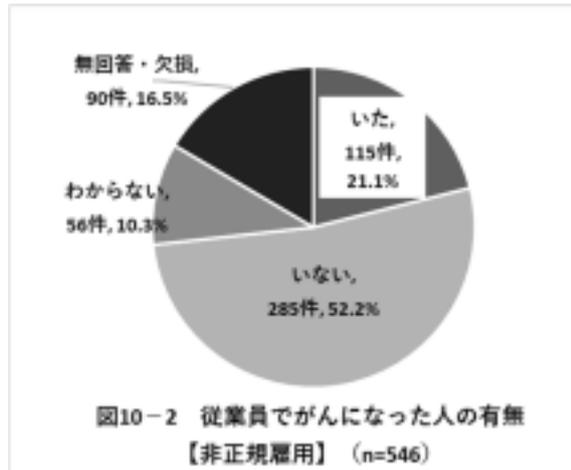
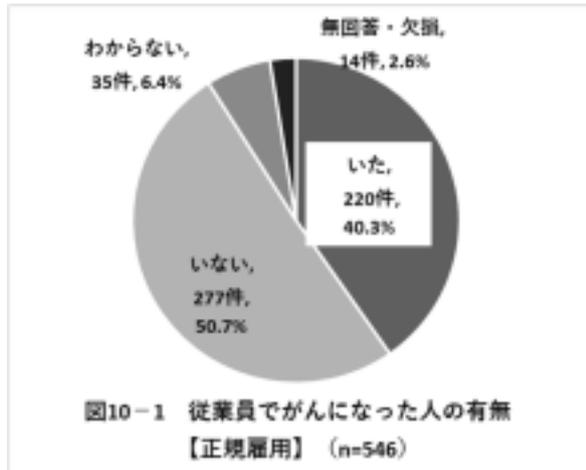
	身分保障期間(月) ※有効データ n=289	所得保障期間(月) ※有効データ n=274
平均	12.3	12.4
最大	60	39
最小	0	0

また、従業員規模別にみると、身分保障期間は従業員が多い法人ほど長く、所得保障期間もおおむね同様の傾向がある。

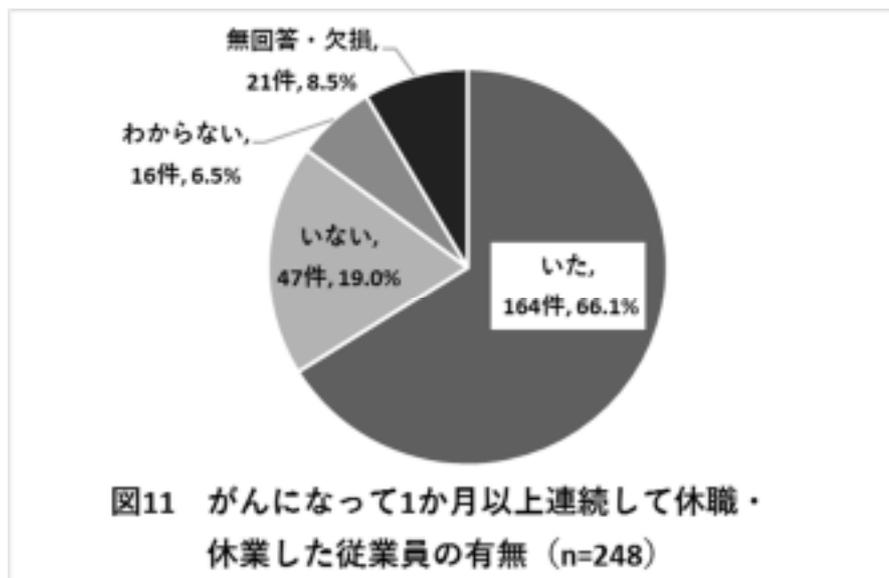


【従業員が私傷病になったときの対応】

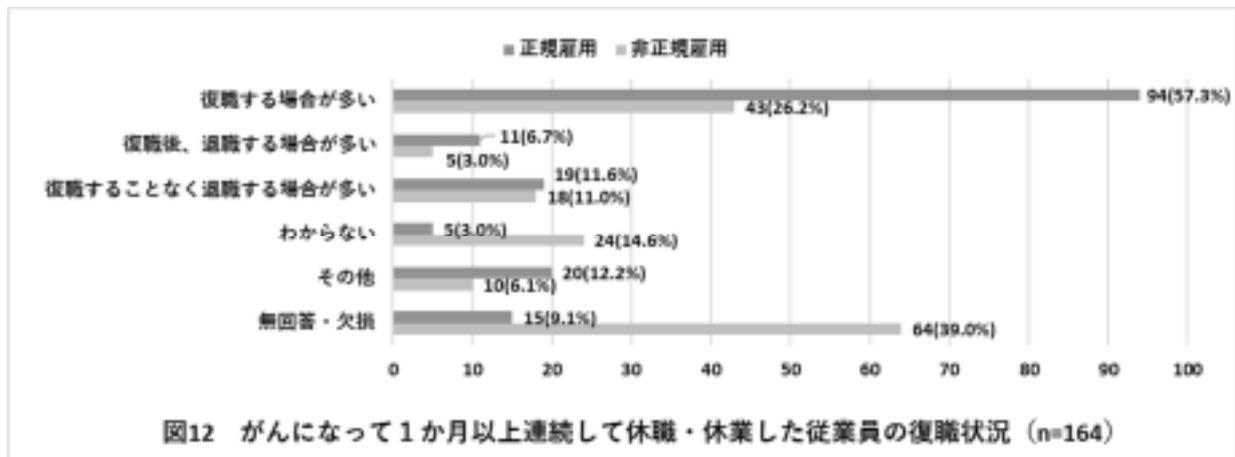
＜問7-1＞過去に、従業員でがんになった人がいた法人の割合は、正規雇用では「いた」が40.3%、「いない」が50.7%であった。また、非正規雇用では「いた」が21.1%、「いない」が52.2%であった。



＜問7-2＞がんにより1か月以上連続して休職、休業した従業員がいた法人の割合は、「いた」が66.1%、「いない」が19.0%であった。



<問7-3> がんにより1か月以上連続して休職、休業した従業員が「いた」と回答した法人の従業員の復職状況を見ると、「復職する機会が多い」が正規雇用 57.3%、非正規雇用 26.2%で最も多く、次いで、正規雇用では「復職することなく退職する機会が多い」が 11.6%、非正規雇用では「わからない」が 14.6%と多かった。



その他に記載の内容は以下のとおり。

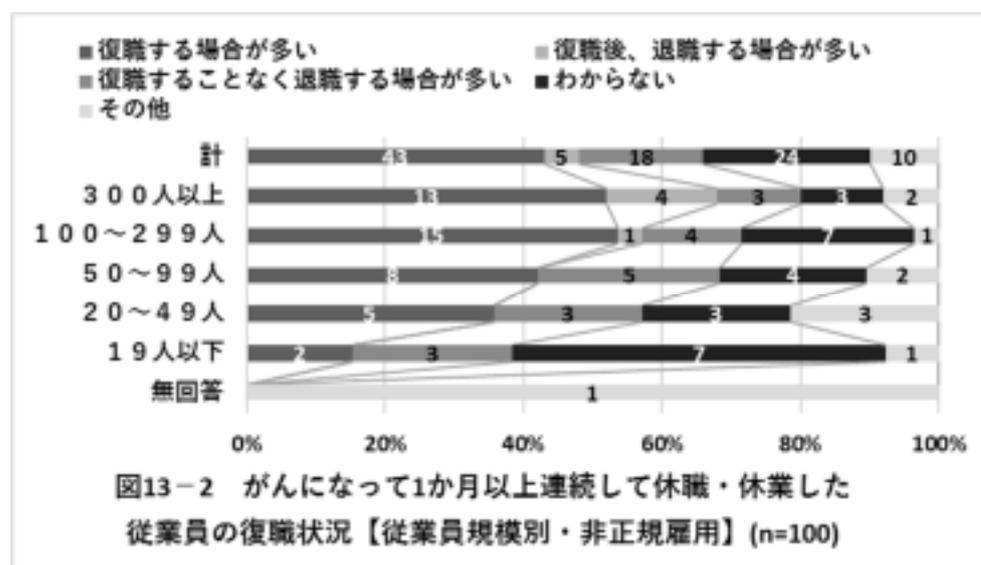
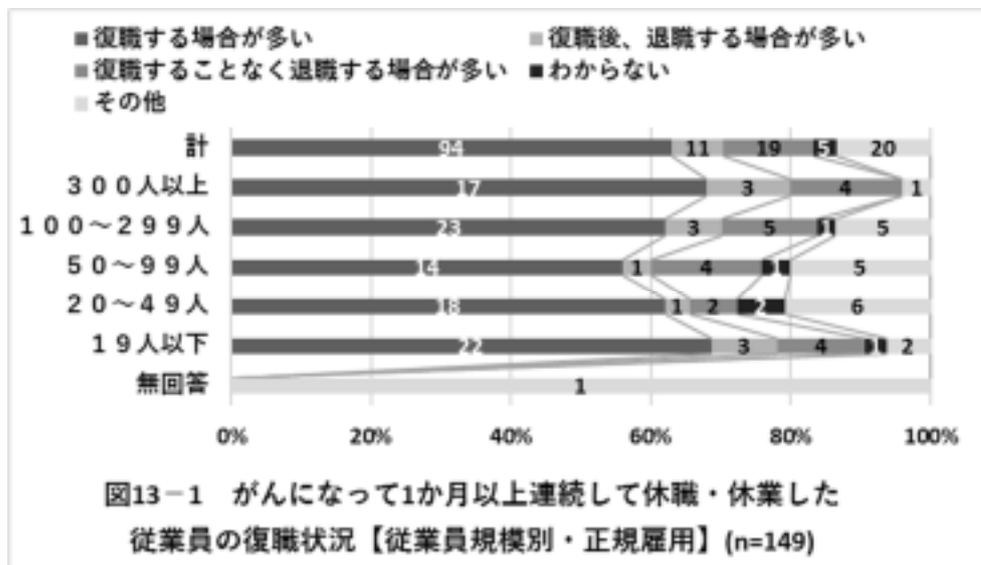
○正規雇用

- ・それぞれ違う
- ・休職中に亡くなった

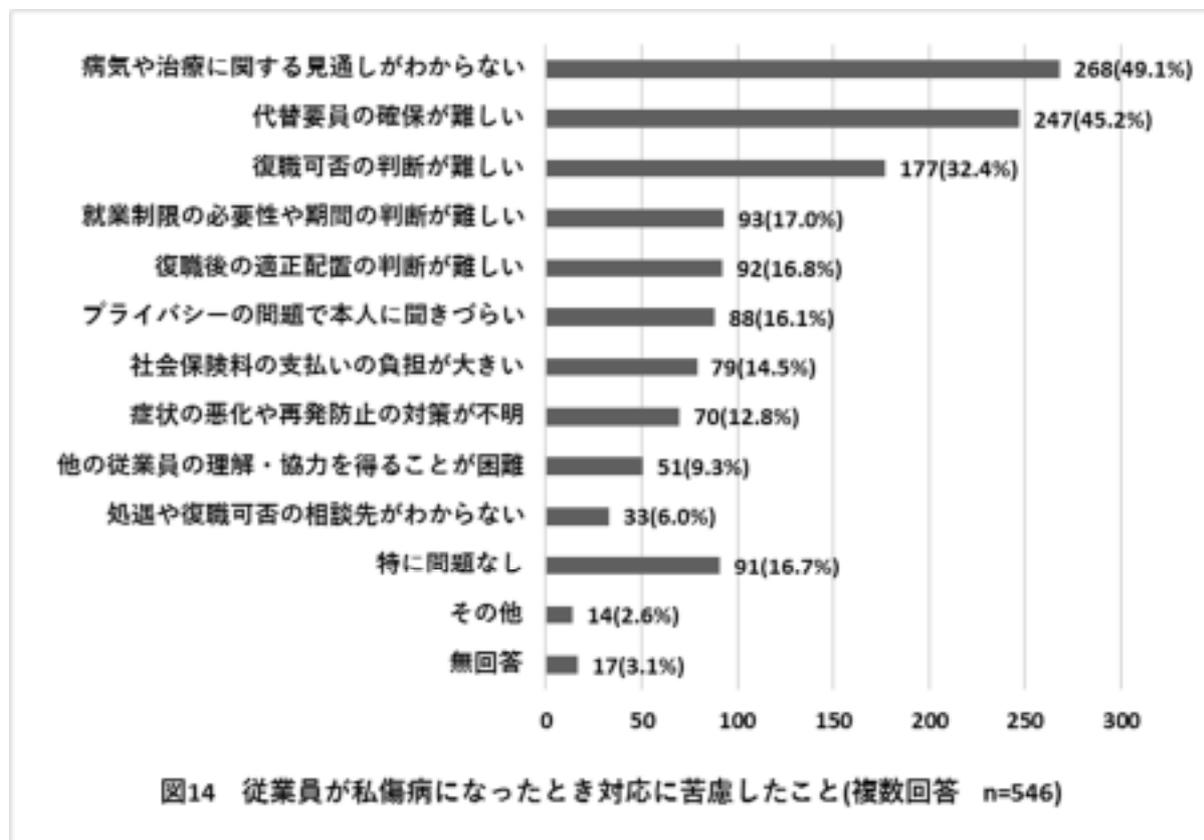
○非正規雇用

- ・休職中に亡くなった
- ・ケースバイケース
- ・現在、休職中

がんにより1か月以上連続して休職・休業した従業員の復職状況を従業員規模別にみると、以下のとおりであった。



＜問8－1＞従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことは、「病気や治療に関する見通しがわからない」が20.3%で最も多く、次いで「代替要員の確保が難しい」が18.7%、「復職可否の判断が難しい」が13.4%であった。

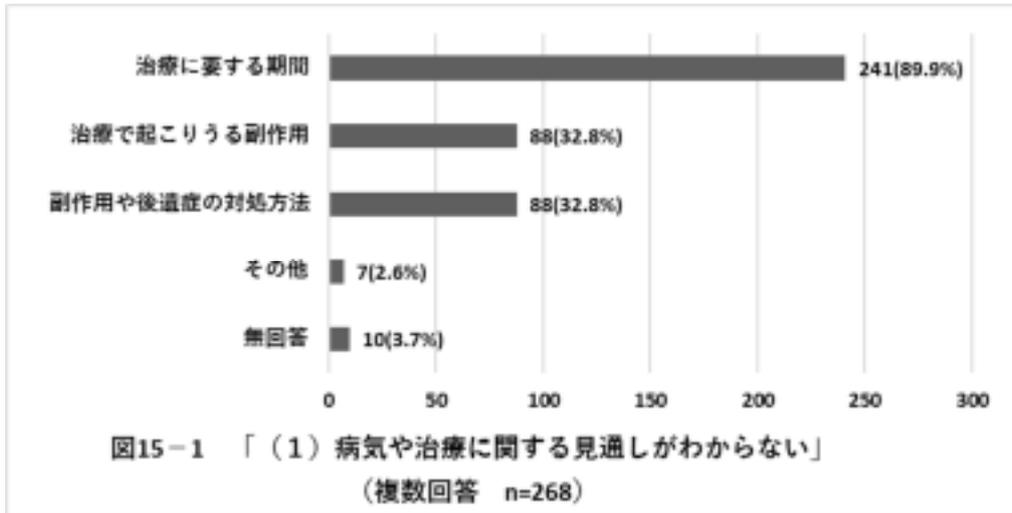


その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・事例がないのでわからない、経験がない
- ・役員1名の会社の為、長期の私傷病の際は法人を解散する。
- ・無理をしないか、心配。
- ・常に”もしも”の時を考え対応策を用意していたこと
- ・派遣社員が多かったため派遣先から1ヶ月が限度であった。
- ・医療機関とのグループ性があるため判断、対策はできる。
- ・部位にもよるので、都度、協力体制はとっていきたい

<問8-2> 従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことの上位3つに該当する場合の具体例や理由は、以下のとおりであった。

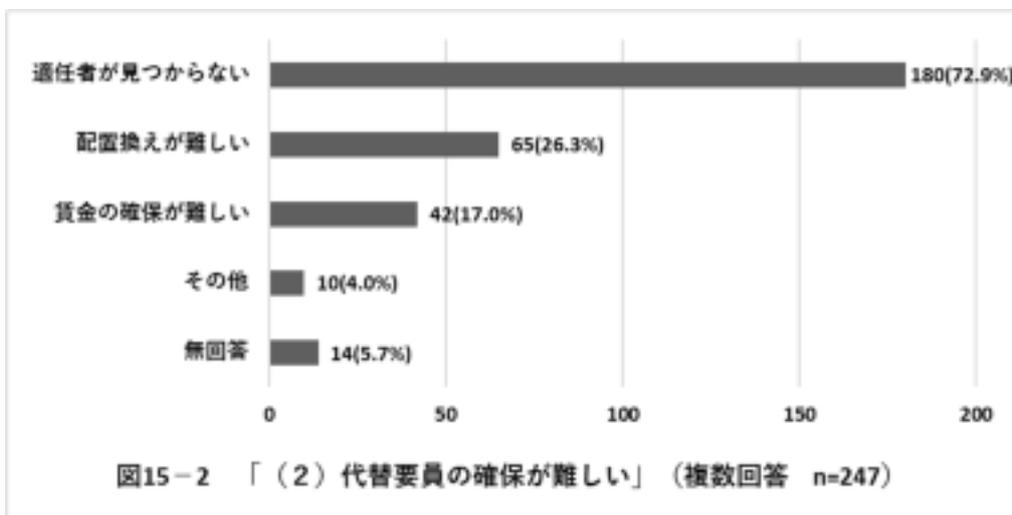
(1) 病気や治療に関する見通しがわからない



その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・適正な業務量や通院治療の見通しなど
- ・事実確認／本人の申告のみは不安
- ・発作的症状が起きるか？→自身で安全確保できるか？(建設業のため)
- ・勤務可能かの判断
- ・運転が可能か

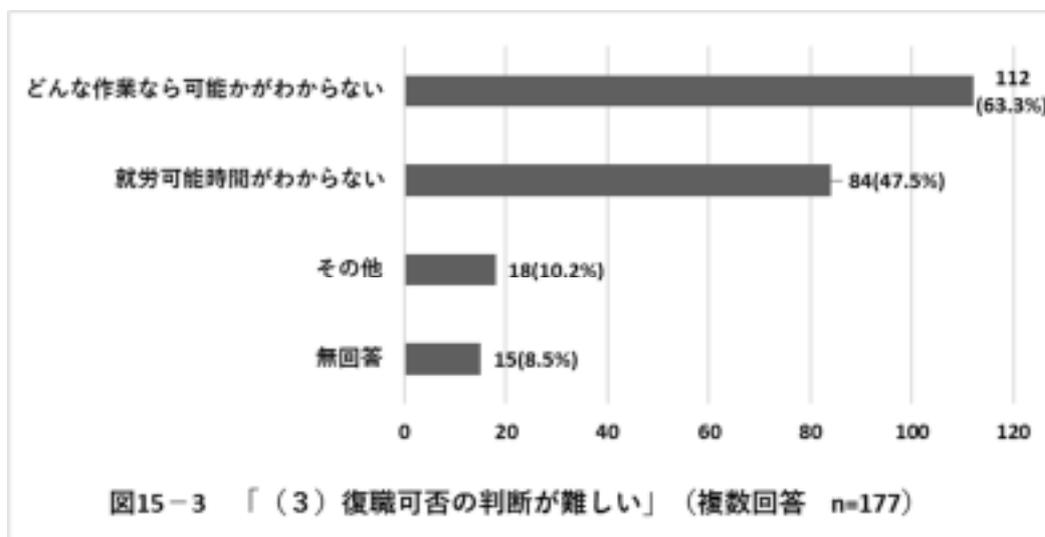
(2) 代替要員の確保が難しい



その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・見通しがわからないと代替要員の募集ができない
- ・要員の確保自体が困難、募集しても見つからない
- ・余剰人負を常置するのが困難。
- ・元の作業に戻れる場合、その担当業務を空けておくことになるが、フォローの為の周りの人の業務負担が増える。
- ・雇用期間がわからない

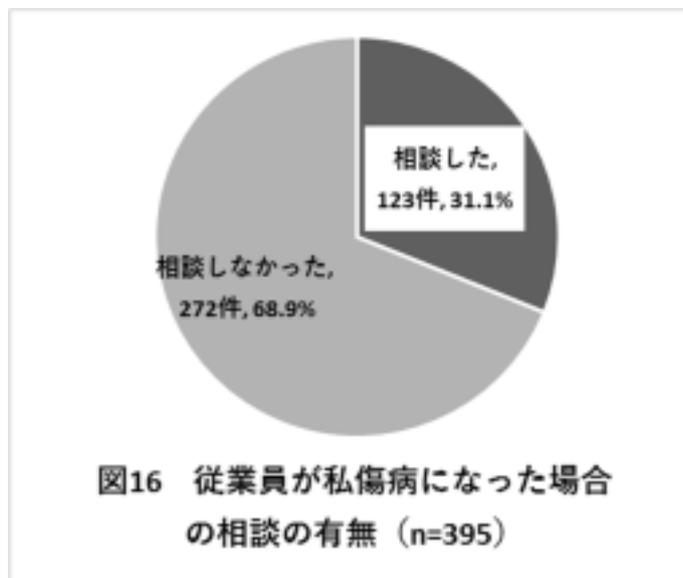
(3) 復職可否の判断が難しい



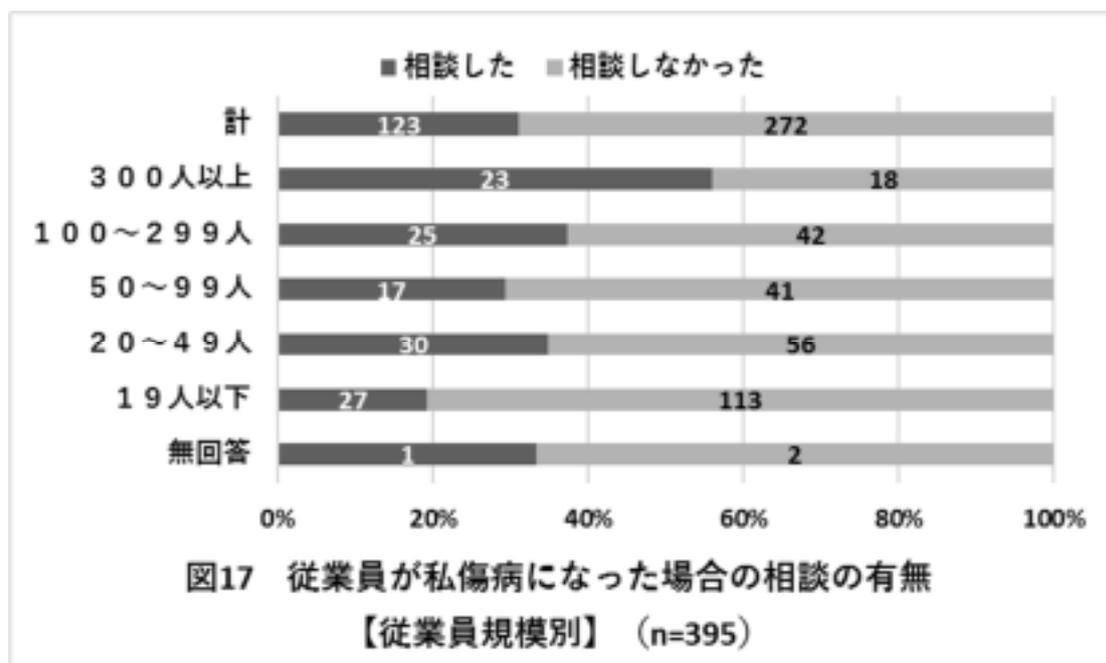
その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・体調が不安定で、代替要員がすぐに見つけれない。
- ・復職後の配置転換による賃金の設定が難しい
- ・いるだけになってしまう。
- ・仕事内容は決まっているので、本人の意志による。
- ・本人に生存率など聞けない
- ・また倒れ、発見が遅れれば命の危険というリスク
- ・状態に適した仕事が必ずあると限らない
- ・どの程度の期間が必要か見通しが立たない

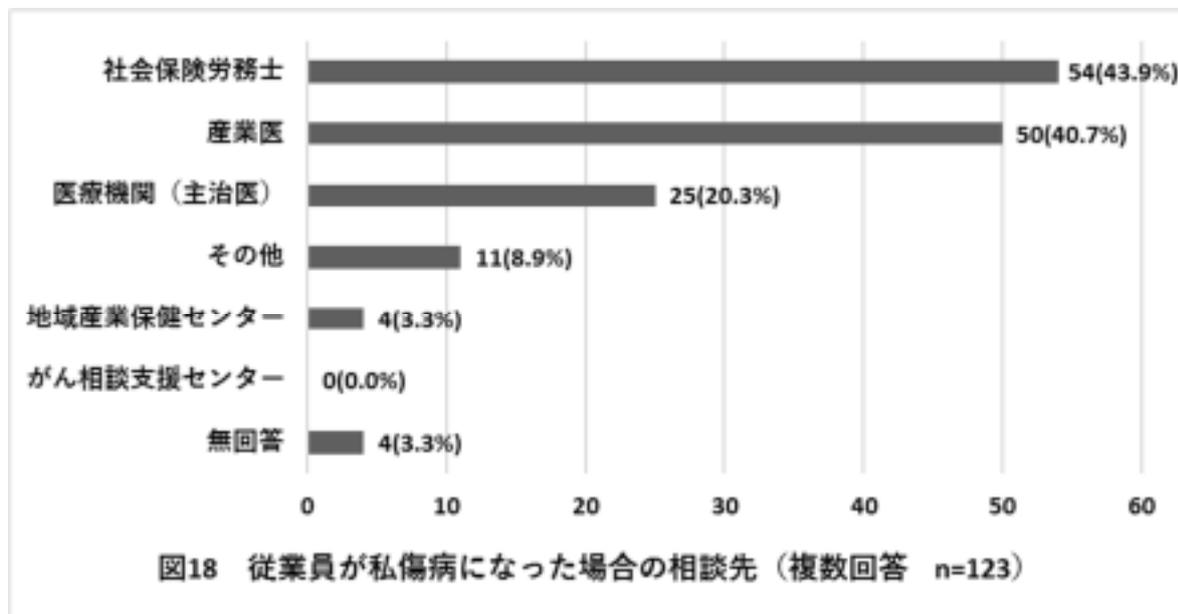
＜問8-3＞従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことについて、「相談した」が31.1%、「相談しなかった」が68.9%であった。



従業員規模別で見ると、おおむね従業員規模が大きいほど相談をした割合が高い。



<問8-4> 従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことについて、相談をした場合の相談先は、「社会保険労務士」「産業医」「医療機関(主治医)」の順に多かった。

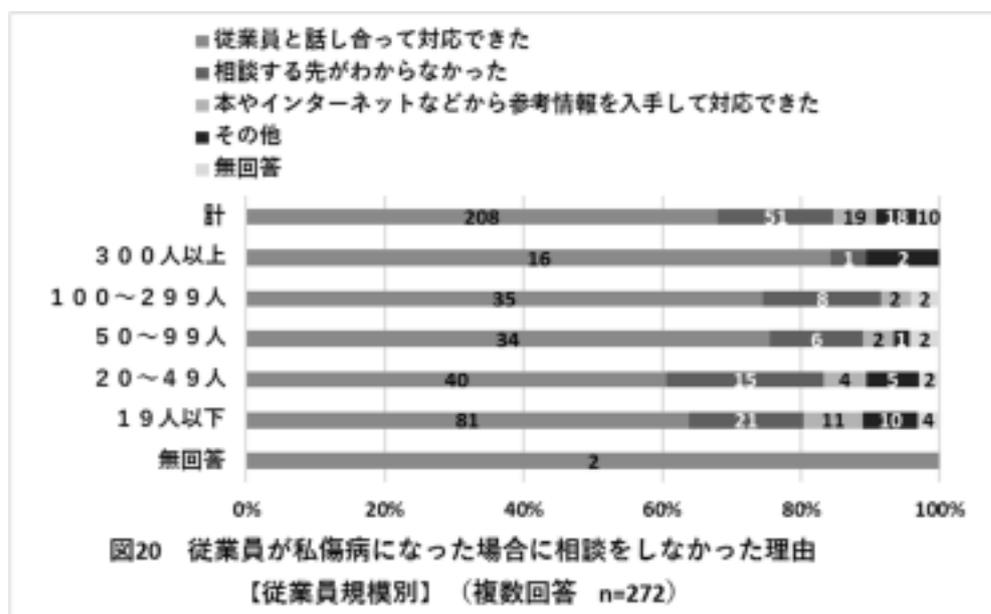
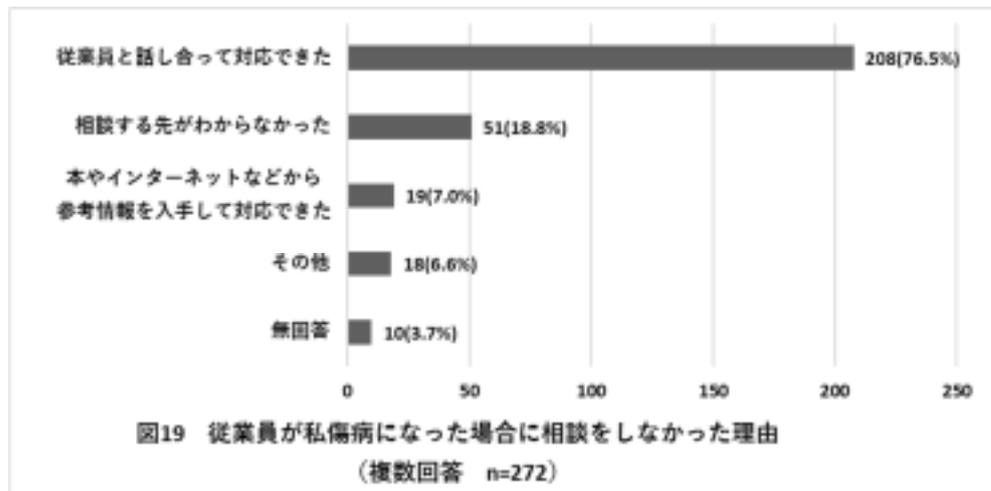


その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・人事担当
- ・労働協会
- ・社内、管理部門相談
- ・弁護士

<問8-5> 従業員が私傷病になったときに、適正配置や雇用管理等、対応に苦慮したことを相談しなかった理由については、「従業員と話し合っただけ」が最も多く、次いで「相談する先がわからなかった」「本やインターネットなどから参考情報を入手して対応できた」の順に多かった。

相談しなかった理由を従業員規模別にみると、「従業員と話し合っただけ」がどの規模でも多かった。また、「相談する先がわからなかった」は、比較的小規模の法人で多かった。

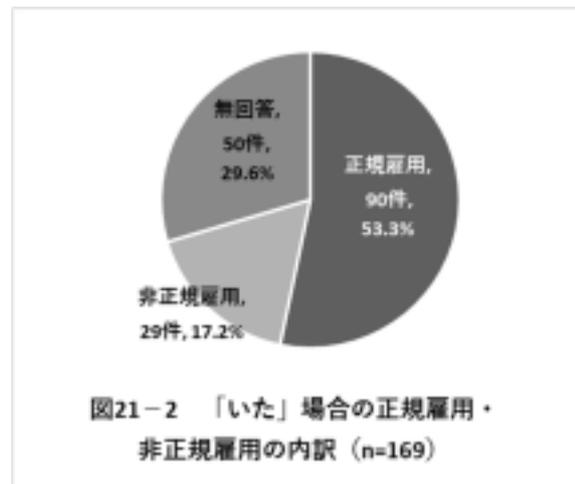
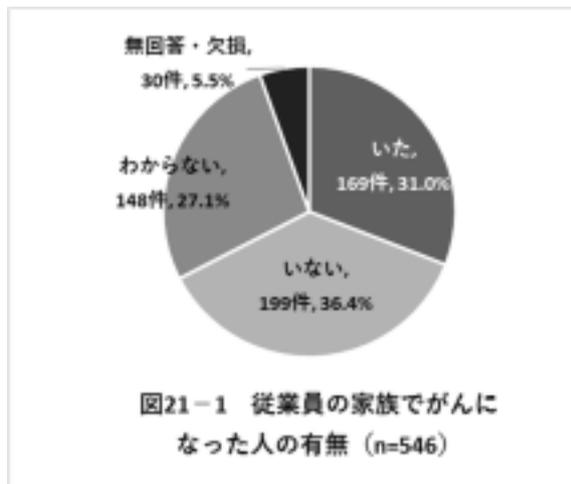


その他に記載の内容は以下のとおり。

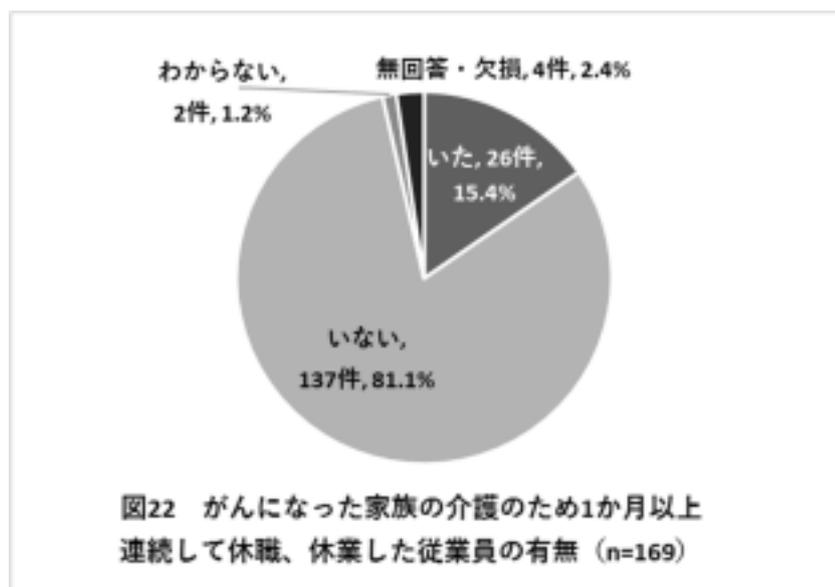
- ・ご家族と相談。本人または家族と話し合うしかない。
- ・すぐに亡くなってしまった
- ・診療所のため病気について詳しいため
- ・ハローワーク求人募集
- ・あくまでも診断書に基づく判断が全て
- ・担当医に連絡し相談したが満足な返答を得られなかった

【従業員の家族が私傷病になったときの対応】

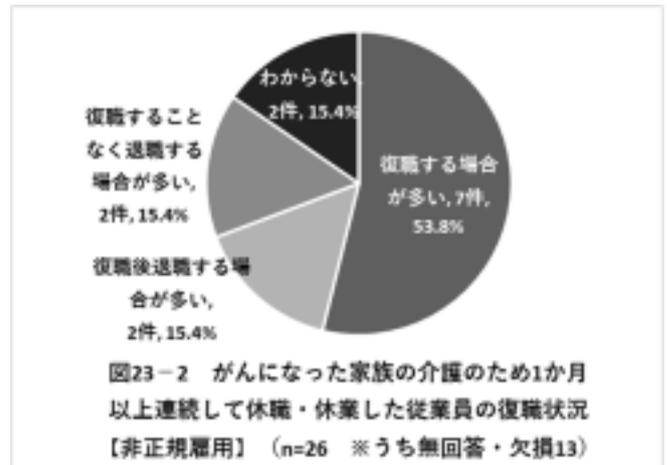
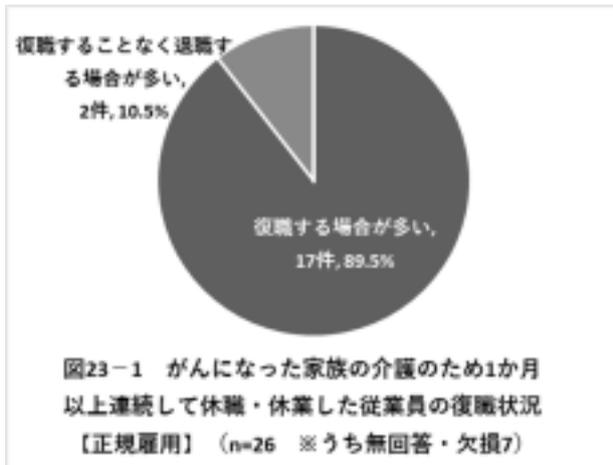
<問9-1> 過去に、従業員の家族でがんになった人がいた法人の割合は、「いた」が31.0%、「いない」が36.4%、「わからない」が27.1%であった。また、「いた」と回答した場合に、該当する従業員の雇用形態は、「正規雇用」が53.3%、「非正規雇用」が17.2%であった。



<問9-2> がんになった家族の介護のため1か月以上連続して休職、休業した従業員がいた法人の割合は、「いた」が15.4%、「いない」が81.1%であった。

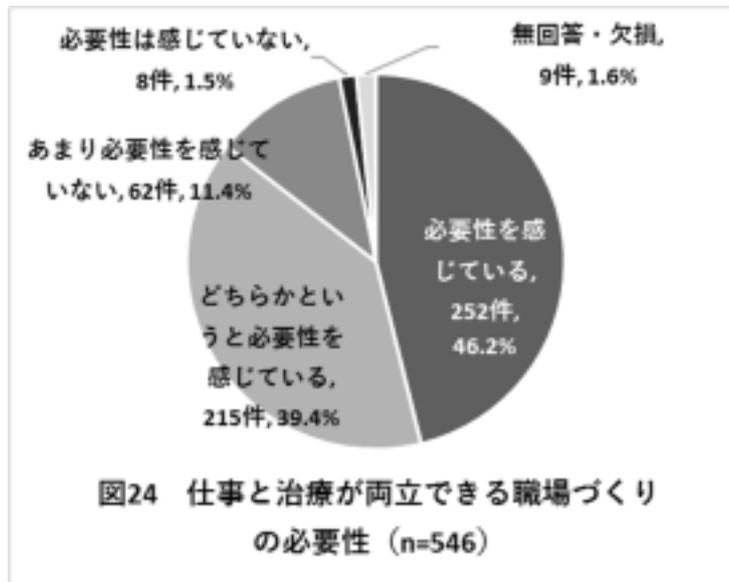


＜問9－3＞がなくなった家族の介護のため1か月以上連続して休職、休業した従業員が「いた」と回答した法人の従業員の復職状況を見ると、「復職するが多い」が正規雇用 89.5%、非正規雇用 53.8%で最も多く、次いで、正規雇用では「復職することなく退職するが多い」が 10.5%、非正規雇用では「復職後退職するが多い」「復職することなく退職するが多い」「わからない」が 15.4%と多かった。



【従業員の仕事と治療の両立の実現に向けた課題や今後の方針】

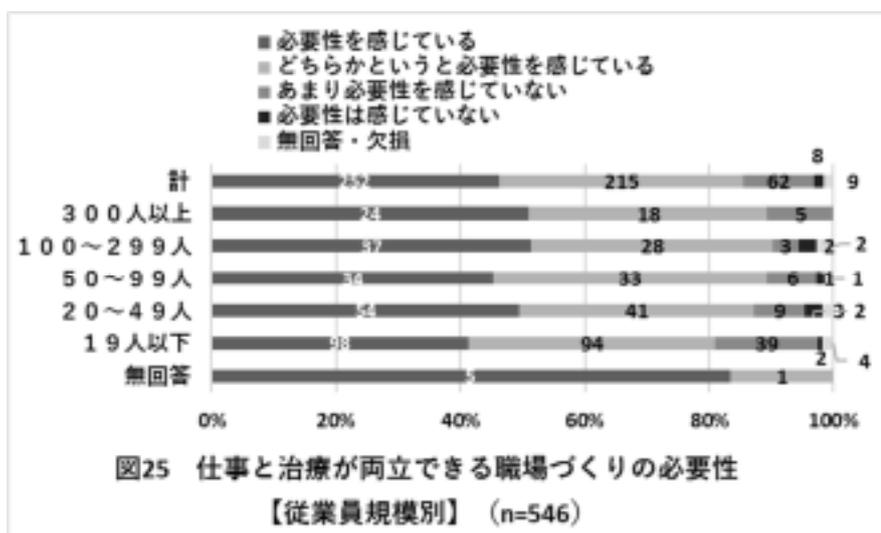
<問10> 従業員が仕事と治療を両立できる職場づくりの必要性については、「必要性を感じている」「どちらかという必要性を感じている」と回答した法人が 85.6%であった。



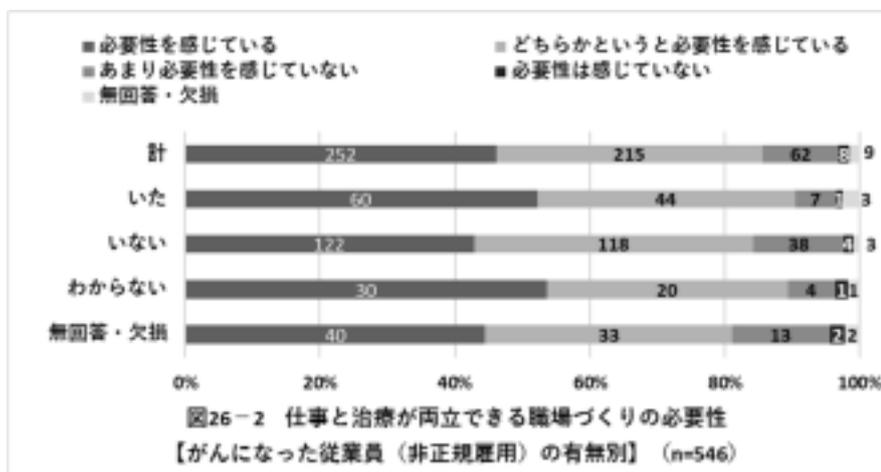
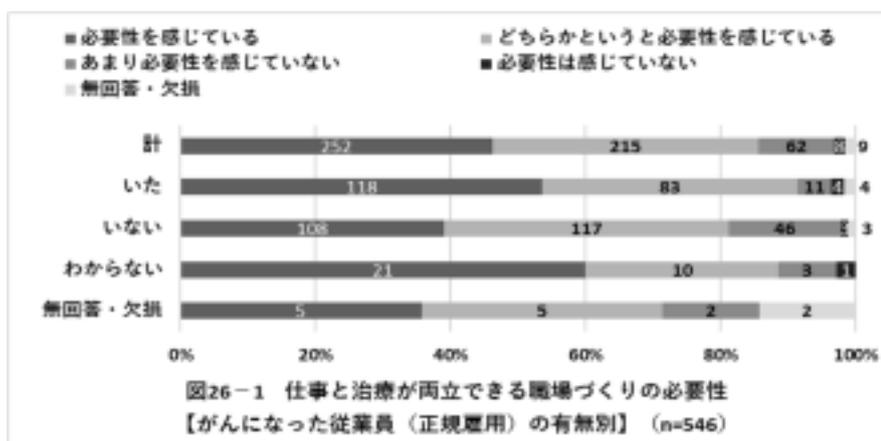
「必要性は感じていない」と回答した場合の具体的な内容は以下のとおり。

- ・本人と話し合い、決めたい、(本人の希望を尊重したい)
- ・体力を使う仕事で無理です
- ・仕事の内容を変える話し合いをしている。

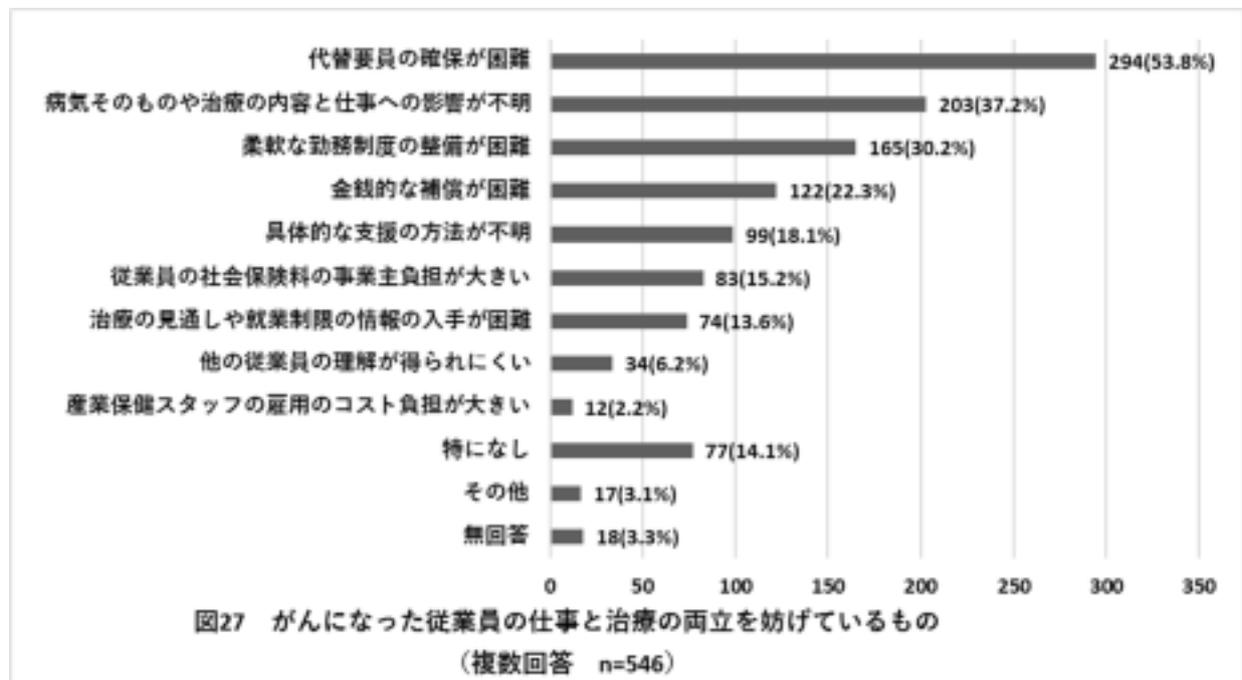
従業員規模別にみると、従業員規模が大きいほど必要性を感じている傾向があり、一方で、19人以下の法人では、「あまり必要性を感じていない」「必要性を感じていない」の割合が他の規模に比べて高かった。



がんになったことがある従業員がいる法人では、がんになった従業員がいない法人に比べて、「必要性を感じている」とする割合（「必要性を感じている」+「どちらかという必要性を感じている」）が高かった。これは、がんになった従業員が正規雇用の場合と非正規雇用の場合で同様の傾向であった。



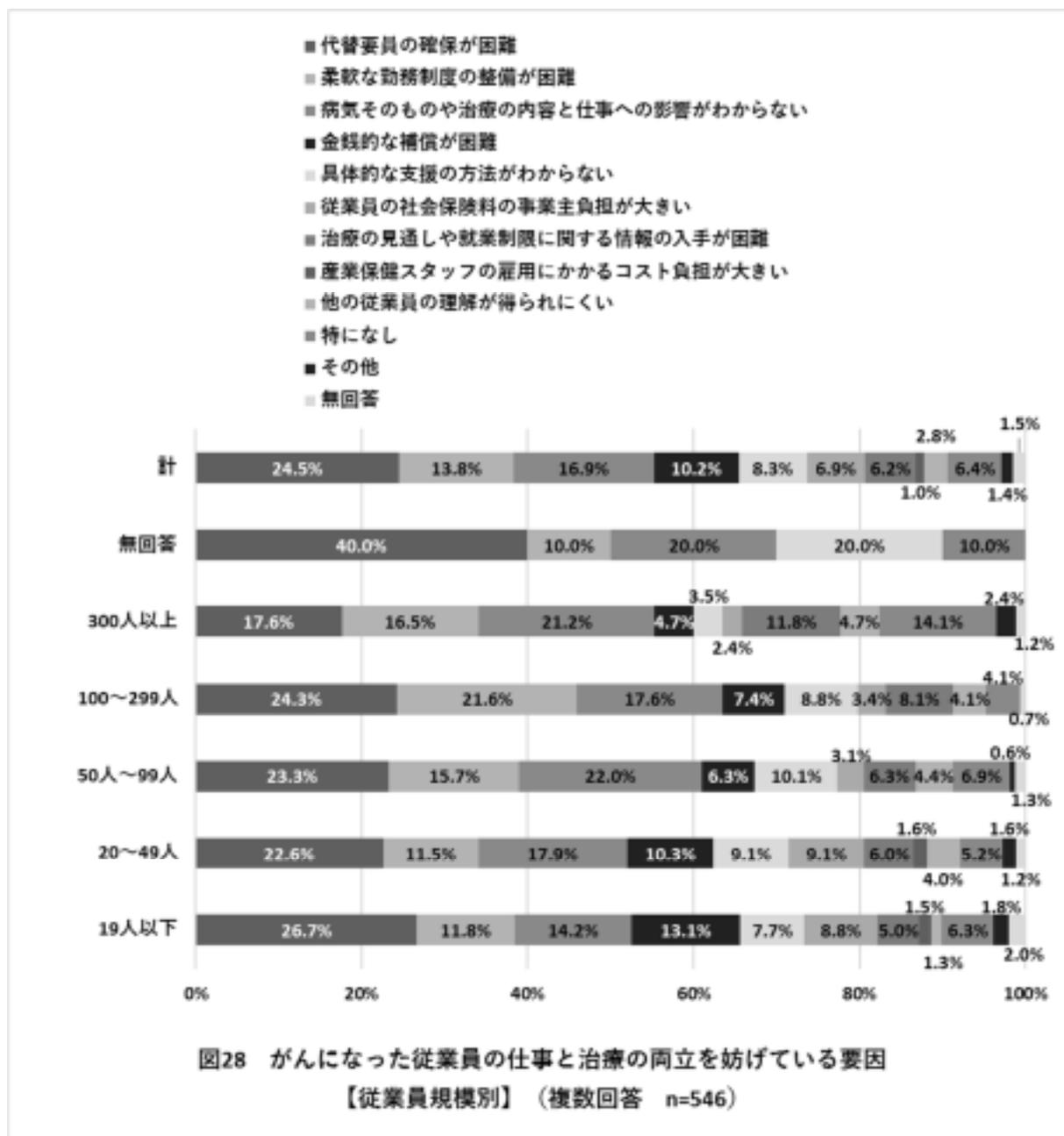
＜問11-1＞がんになった従業員の仕事と治療の両立を妨げているものについては、「代替要員の確保が困難」と回答した法人が最も多く、次いで「病気そのものや治療の内容と仕事への影響が不明」「柔軟な勤務制度の整備が困難」が多かった。



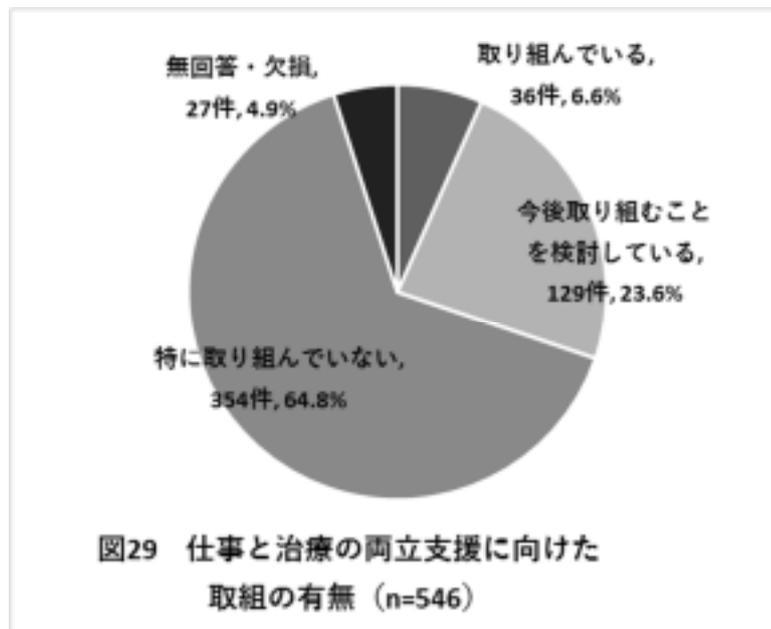
その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・日給月給制(職人)のため会社より本人が大変になる。
- ・復職後の代替要員の取扱い
- ・完全復職出来る状態になるまでの体調や通院治療等を優先する。
- ・仕事の内容上、席を確保しておく余裕がない
- ・両立は厳しい仕事
- ・そういうケースでも、産業医に相談することになっている。
- ・体力を使う仕事内容であること
- ・本人の希望を優先に対応していきたい
- ・警備業の為夜間一人勤務の場所が多数有るので心配
- ・治療による衰弱
- ・本人の気持ちの変化

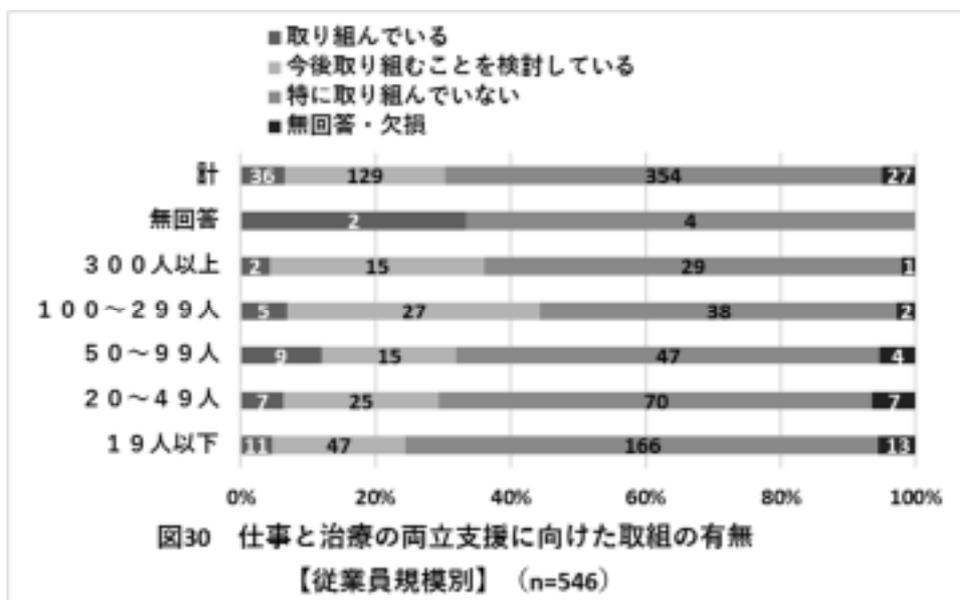
従業員規模別にみると、従業員規模が小さいほど「代替要員の確保が困難」「金銭的な補償が困難」の割合が高く、300人以上の法人では、「病気そのものや治療の内容と仕事への影響がわからない」が最も多かった。



<問11-2>がんになった従業員の仕事と治療の両立が実現可能な職場づくりを進めるための取組の有無は、「取り組んでいる」が6.6%、「今後取り組むことを検討している」が23.6%、「特に取り組んでいない」が64.8%であった。

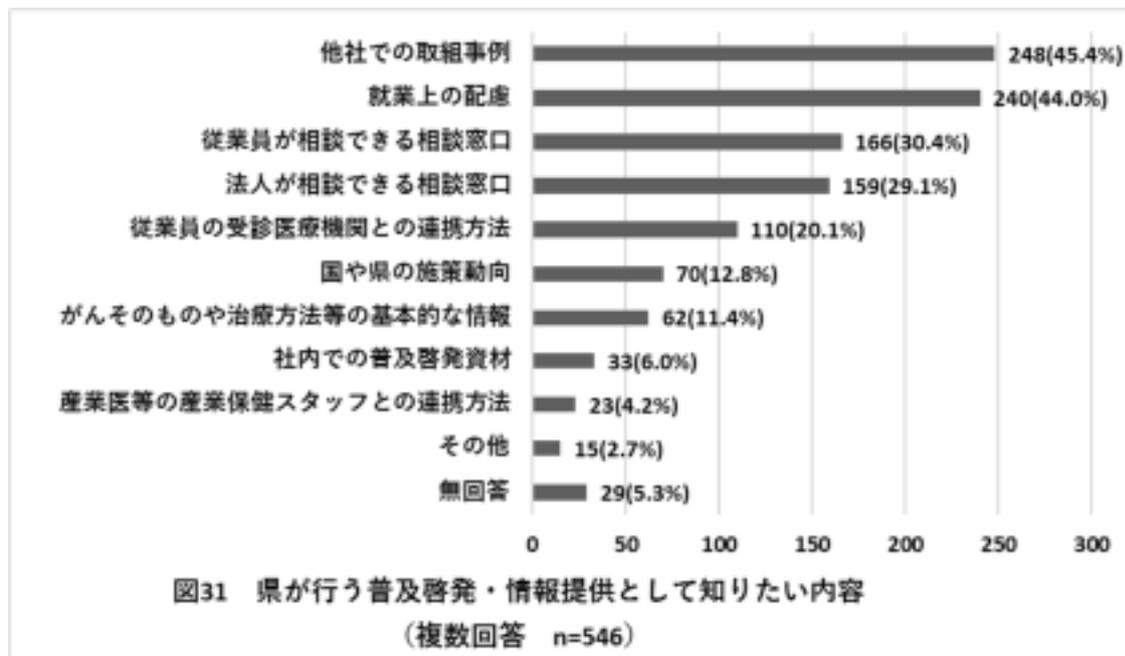


従業員規模別にみると、従業員規模が大きいほど、「取り組んでいる」「今後取り組むことを検討している」と回答した割合が比較的多かった。



- 「取り組んでいる」と回答した場合の具体的な取組内容は以下のとおり。
- ・完全復職出来る状態になるまで本人の体調や通院治療等を優先する。
 - ・がんに限らず、常に相談し勤務体制を変更可にしている
 - ・見舞金、作業量軽減、時間給変更可

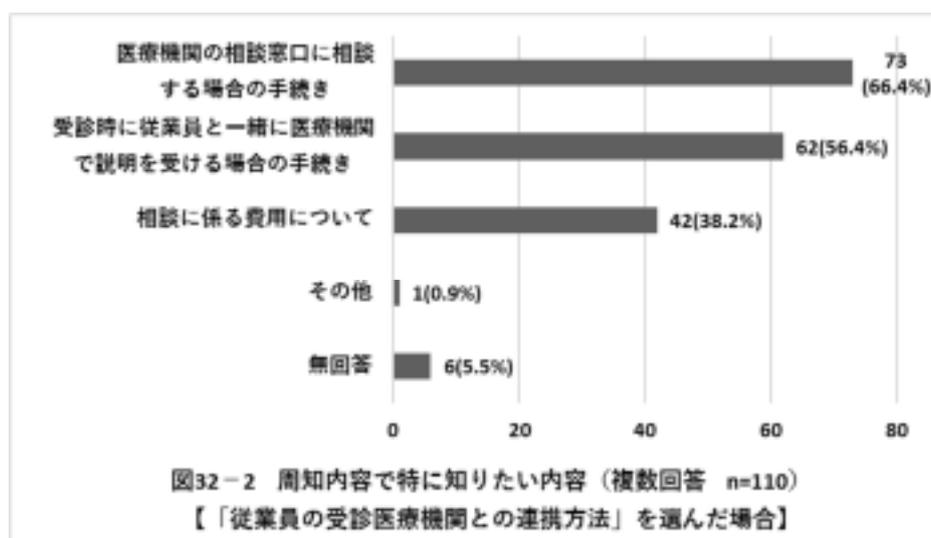
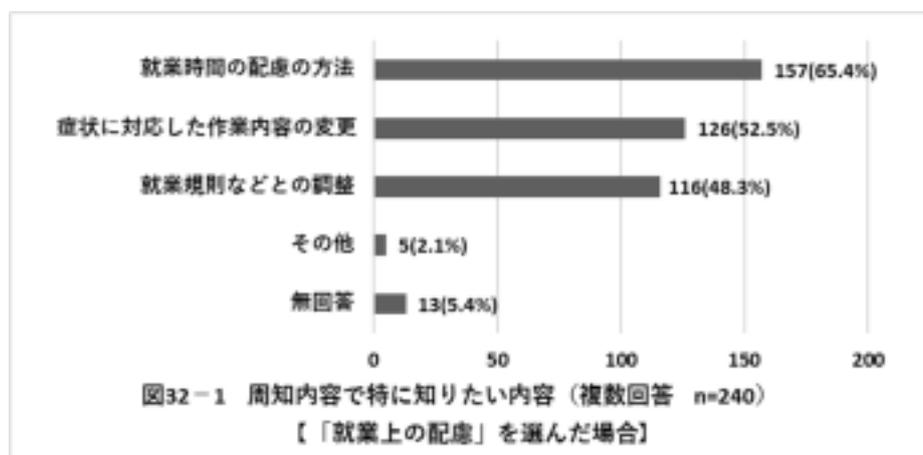
＜問12-1＞今後、県が、県内企業等を対象に、がんになった従業員の仕事と治療の両立が図られることを目的として普及啓発・情報提供を行う場合、法人として特に知りたい内容については、「他社での取組事例」が最も多く、次いで、「就業上の配慮」「従業員が相談できる相談窓口」が多かった。



その他に記載の内容は以下のとおり。

- ・がんで仕事ができる状態なのか、わからない
- ・余計な予算を使って国・自治体ができる事ではない

＜問12-3＞問12-1で「就業上の配慮」「従業員の受診医療機関との連携方法」を選択した場合に、特に知りたい内容は以下のとおりであった。

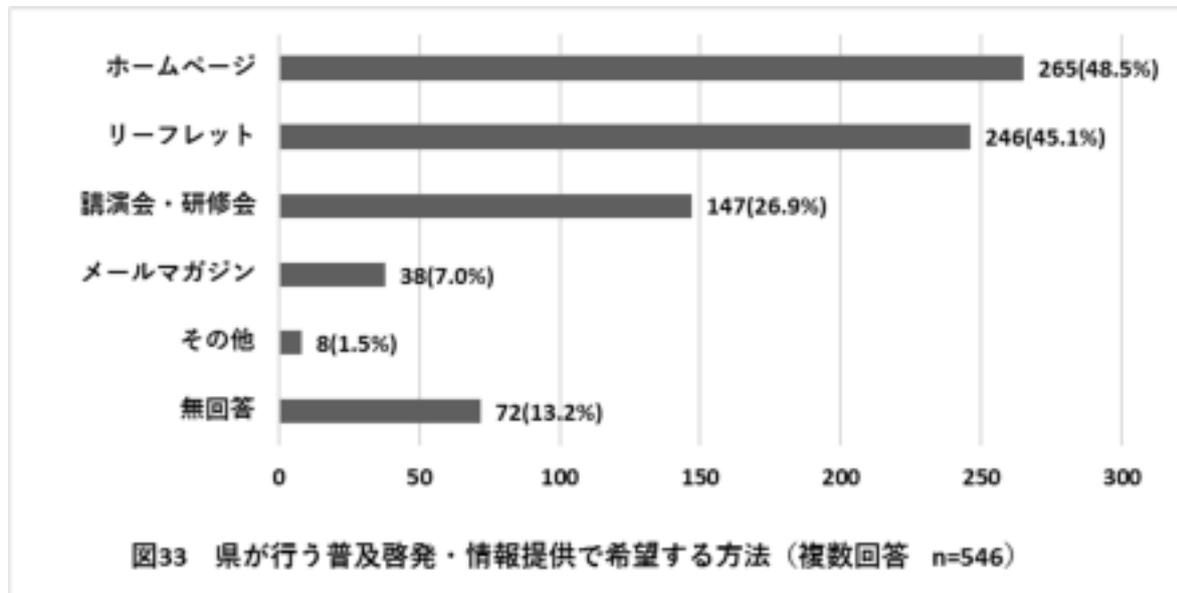


その他に記載の内容は以下のとおり。

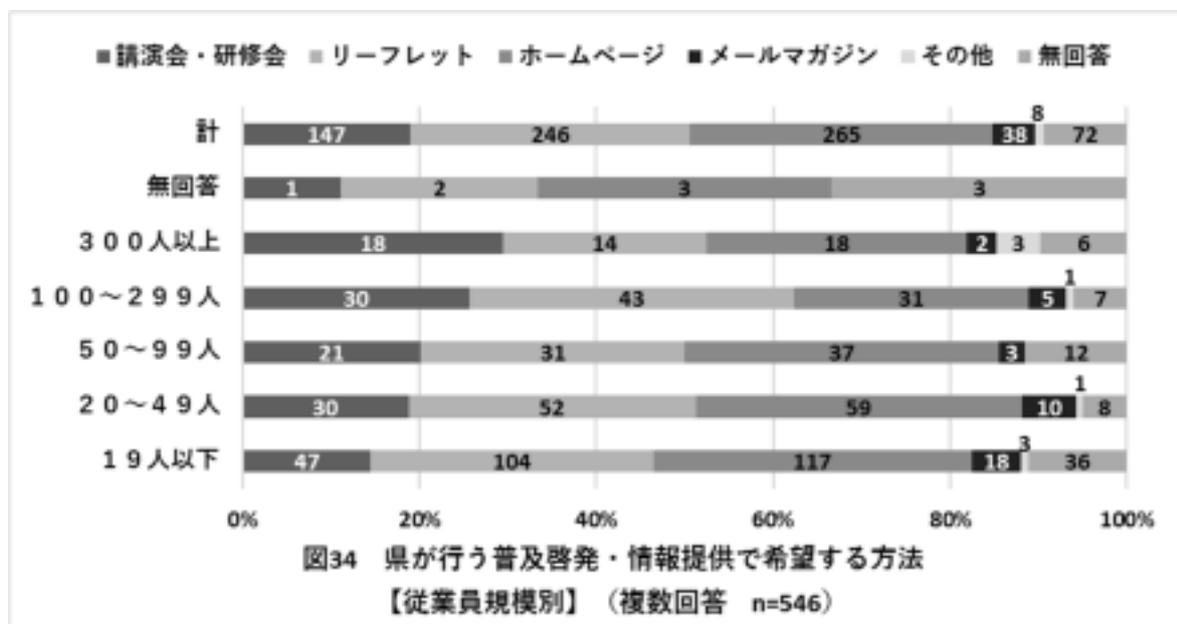
○「就業上の配慮」を選んだ場合

- ・各がんの治療方法と症状や副作用、転移

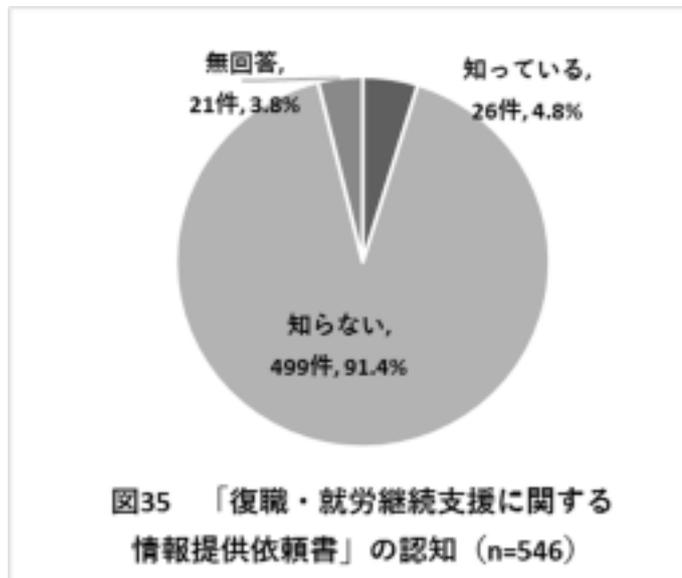
＜問12-2＞県が行う普及啓発・情報提供の方法として希望するものは、「ホームページ」が最も多く、次いで「リーフレット」が多かった。



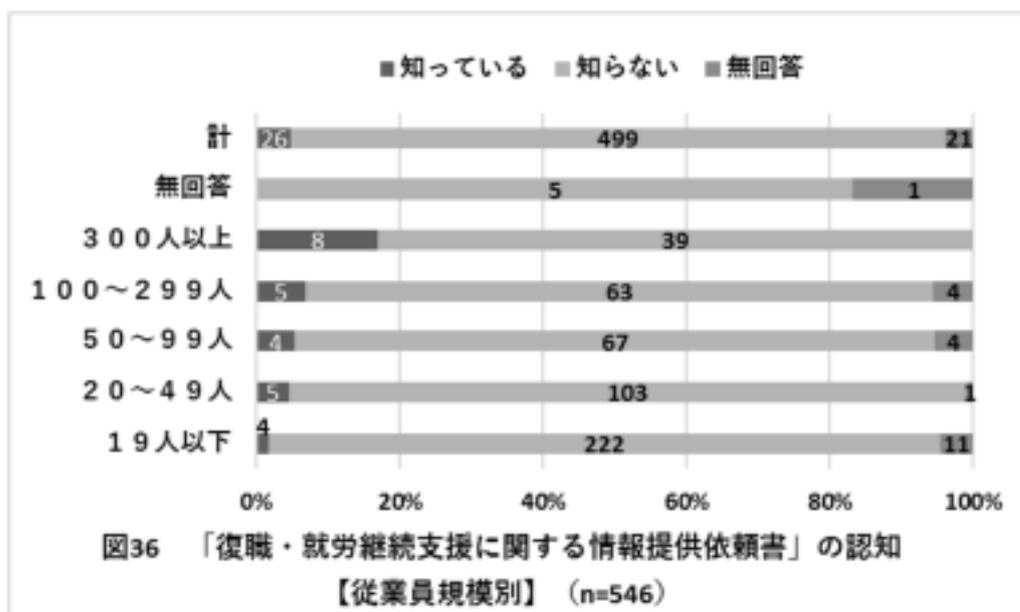
従業員規模別にみると、すべての規模で「ホームページ」「リーフレット」が多くを占めていたが、従業員規模が大きい法人ほど「講演会・研修会」の割合も高くなっていった。



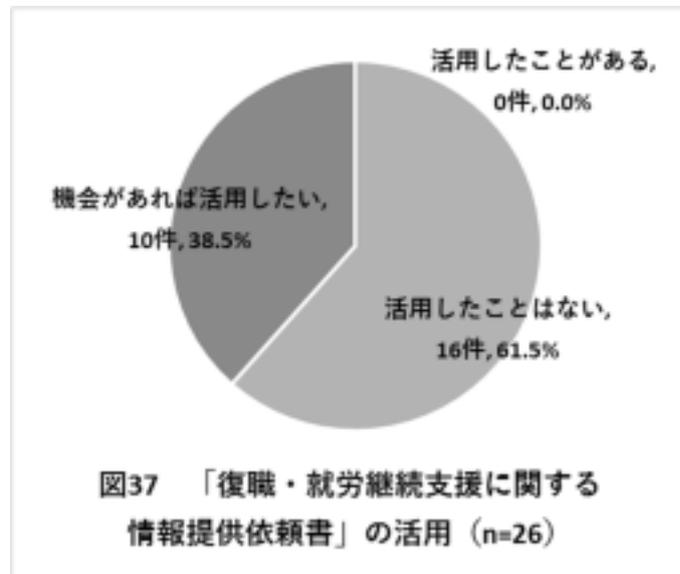
<問13>平成28年度に千葉県で作成した、「復職・就労継続支援に関する情報提供依頼書」の認知については、「知っている」が4.8%、「知らない」が91.4%であった。



従業員規模別にみると、少数ではあるが、従業員規模が大きいほど「知っている」と回答した割合が多かった。



＜問14＞問13で「復職・就労継続支援に関する情報提供依頼書」を「知っている」と回答した場合の、情報提供依頼書の活用状況については、「活用したことはない」が61.5%、「機会があれば活用したい」が38.5%であり、「活用したことがある」は0%であった。



<問16> その他、がんになった従業員の仕事と治療の両立に関する悩み・意見や、行政に対し求めたいこと等は、以下のとおりであった。

○ 運送業のため運転に支障がなければ両立はできると思われます。

○ どんな事でも協力と理解を持って対応したい。

○ がんもレベルにより、仕事の復帰できる人、出来ない人様々だと思う。復帰出来るのなら、それに向けて支援するつもりである。がんになったからと無下に断ることは全く考えていない。このアンケートでは、うまく答えられない。

○ 病気になる前に、体を休める時間が建設業は少ない。週1回の休みしかないのは体にとって病気にかかるリスクが高いと思います。

○ 従業員さんの話を良く理解してあげる事(自分の身になって考える事)

○ がん以外にも発病している場合、どちらが重大なのか知りたい。

○ いままで、そのような経験がなかったので、考えもしませんでした。現在の従業員にそのような事が起こったら・・・と今日初めて考えました。

○ がん健診をもう少し多く幅広できればへと思います。今のは不十分です。

○ 従業員ではありませんが、私のがんで入院、診療出来ない期間の資金の、全員非正規のフルパートですが、資金の8割給付にさせていただきました。

○ がん検診を定期的に行ってほしい。

○ 当社にはガンになった社員がいませんので設問に正しく答えられているかわかりません

○ ガンに特定での回答は難しい。該当者がいないため。現在、おそらく糖尿病の従業員の仕事と治療の両立についての方が急ぎの解決問題である。

○ 本人の気持ちしたいにはなりますが、同情されたくないからとオープンにしない職員もあり、そのような中だと制度があったとしても取りづらかったり、休みを取得しても、「あの人は何故」などの、職場の理解が得られない場合がある。啓発できるリーフレットなどがあると、ありがたい。

○ 経験した事はありませんが、今後直面した場合の事も考える必要があるので、勉強したいと思います。本人の気力、体力のサポートが大事と思っています。

○ 保険の仕事しているが、がんと言っても個人個人が病気に対する考え方が違うので、状況から仕事復帰まで長短有ると思う。仕事によっては代替要員は出来ないの、企業として準備したが小企業では？

○普段から厚生労働省「がん就労者」支援マニュアルを参考にさせて頂いております。今後におきましても、事業場における知量と仕事の両立支援のガイドライン等を参考にして取り組みたいと思います。

○今現在は、従業員本人のがん患者が過去 1 人もいないのでわからないが身内のがん患者はいたので様子はわかる。今後は、取り組みのベースのサンプルがあると考えやすく助かる。

○ルール作り、簡単なガイドマップ。とくに中小家族企業のような小さいところでも相談にのってほしい

○可能な限りやっている 自治体は余計な事をせず税を下げろ このアンケート自体不快。

○中小企業ではあるが、従業員に対する福利厚生は比較的厚いと思っている。従業員に単身者が多いので、特に個別の対応になると思います。

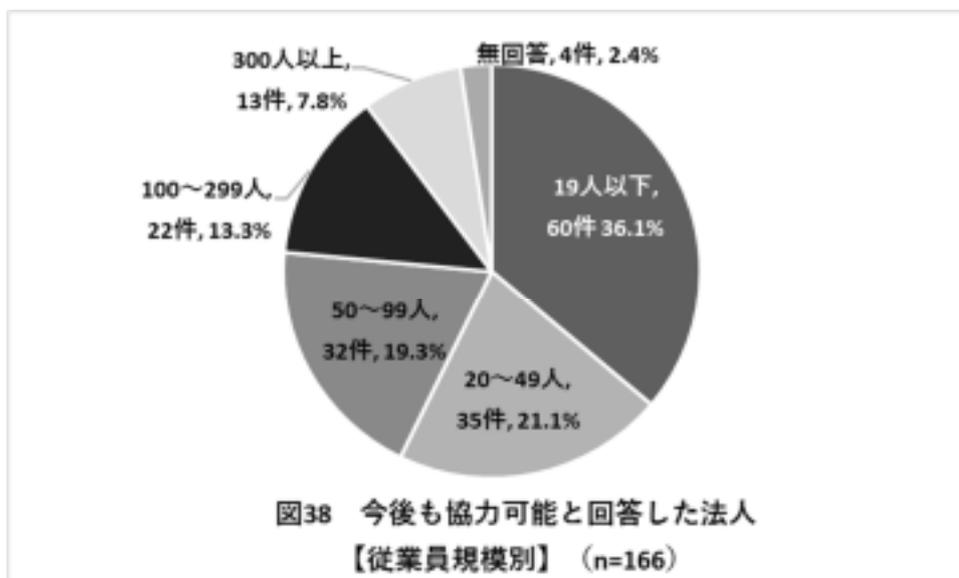
○ガンになっても復職できれば望ましいが、全ての者が回復できるとは限らず亡くなるケースも多い。復職が負担になったり無理な場合もあり、個別の対応が必要であるから難しい。

○ご本人が無理せず、自身の症状と向かい合わない限り、両立は難しいのが事実です。

○支障がなければ、出来る限り仕事をした方がいい

■今後の調査協力について

今後もアンケート等に協力可能と回答した法人は、166 法人であった。
従業員規模別では、「19 人以下」が 36.1%、次いで「20～49 人」が 21.1%、「50～99 人」が 19.3%であった。



そのうち、がんにかかったことのある従業員のいる法人は 84 法人であった。従業員規模別では、「50～99 人」が 23.8%と最も多かったが、全ての規模において大きな割合の差はなかった。

